

## 平成 28 年度男女共同参画に関する市民意識調査結果報告（概要）

## 1 調査の目的

この調査は、飯田市の男女共同参画の現状や市民の考えを把握し、次期飯田市男女共同参画計画策定にあたっての基礎資料とすることを目的とする。

## 2 調査の方法

- (1) 調査対象 飯田市に住む 20 歳以上の男女、1,000 人  
 (2) 抽出方法 住民基本台帳から男女別、年齢別人口比率の調整による無作為抽出  
 (3) 調査期間 平成 28 年 7 月 20 日～8 月 31 日  
 (4) 回収結果 配布数 1,000  
 回収率 37.9% (379/1000)  
 回収率は前回調査時の 47.4%から 37.9%へと 9.5 ポイント減少。

## 3 考察

## (1) 回答者属性について 問 3、問 5

- ・結婚している女性の 30 歳代の 73.1%、40 歳代の 83.6%が共働き。5 年前よりも女性の勤め人の割合が増えている。

## (2) 男女共同参画に関わる法律・計画の認知度について 問 6 (1) ～ (9)

- ・「男女共同参画社会」、「ワーク・ライフ・バランス」、「飯田市の男女共同参画計画」、「男女雇用機会均等法」、「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」、「育児介護休業法」、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律」、「飯田市の女性相談窓口」の認知度について設問したところ、「知っている」「聞いたことがある」が 5 割から 8 割以上となっており、全般に男女共同参画に係る言葉の認知度は高まっていると考えられる。

## (3) 男女の平等感について 問 8

- ・職場、地域活動、法律や制度、習慣・しきたりなどでは「男性優位」と感じている人が多くなっている。学校、家庭などで「平等である」と感じている人が多くなっているが、5 年前より「平等である」が、全項目で低下しており、現実の生活の中での不平等感が増している傾向にあると考えられる。

## (4) 家庭生活に関わることについて 問 9

- ・家庭での役割分担については、家事全般において「主として妻」が多く、固定的性役割分担意識が根強く残っている。しかし、男性の方が「夫婦が協力」と回答している割合が高く、男性の意識が家事参加へと向かっていることが伺われるが、男女間の意識に差がある。

## (5) 家族の介護・看護に関わることについて 問 9 (7)、問 10、問 12

- ・家族の介護・看護の担い手としては「主として妻」「夫婦が協力」が多いが、30 歳代では「その他」が多い。
- ・家族の介護・看護を誰にお願いしたいかでは、「配偶者」が 42.5%であり、特に男性が「配偶者」が高い。家族全般が減少し、施設・ヘルパーが増加している。
- ・「男性が、家事や育児、介護などへの関わりを増やすために必要なこと」では、「子供の頃からの教育」、「労働時間の短縮・各種休暇制度の充」、「仕事と子育ての両立支援」がそれぞれ 20%

を超えており、子どもの頃からの教育とワーク・ライフ・バランスの推進が必要と答える人が増えている。

(6) 仕事(労働)・職場に関わることについて 問15～問21

- ① 有給休暇については、「取りやすい・どちらかといえば取りやすい」が30.1%、「取りにくい・どちらかといえば取りにくい」が20.1%である。女性の20～40歳代、男性の20～30歳代が「取りにくい」が多い。

育児休業は、「取りにくい・どちらかといえば取りにくい」が22.4%、「取りやすい・どちらかといえば取りやすい」が21.6%である。

介護休業は、「取りにくい・どちらかといえば取りにくい」が25.6%、「取りやすい・どちらかといえば取りやすい」が15%である。

育児休業、介護休業ともに「男性も取ることに賛成だが、現実的に取りづらい」と回答した人が5割を超えている。理由は、「周囲の人に迷惑」「とる雰囲気がない」「経済的に困る」「仕事が忙しい」「取った男性がいない」「人事評価や昇給に悪影響」の順であり、職場環境を理由として挙げている人が多い。

- ② 女性の昇進、管理職への登用について、「男女の区別なく幅広く登用を図っている」が21.1%、「女性は補助的な業務」が14.1%、「女性は特定の職種や分野で登用」が13.5%である。女性の20歳代、40歳代で「男女の区別なく幅広く登用を図っている」が少ない。

- ③ 女性従業員の活用にあたっての課題については、「家事・育児等による部署や残業の制約」が19.2%、「女性自身が昇進・昇格を望まず、仕事に消極的」が10.3%、「管理職や同僚の男性の認識、理解が不十分」が8.7%、「勤続年数が男性に比べ短い」が7.3%である。

- ④ 職場では、従業員の子育て、介護などの家庭生活と仕事との両立について、会社、上司、同僚ともに理解があると回答している人が多い。

- ⑤ 仕事と家庭生活を両立させ、安心して働ける環境を作るため必要なこととして、14.9%が「育児・介護休業制度を利用しやすい職場環境の整備」14.3%が「育児・介護休業中の経済的支援」8.2%が「介護サービスの充実」7.6%が「保育の充実」「学童保育の充実」と回答していることから、職場環境の整備と制度の充実が求められていると考える。

(7) 地域活動に関わることについて 問22、問23

- ① 地域の団体やサークル、クラブ活動への参加状況では、「参加していない」が49.9%であり、女性の20～40歳代が「参加していない」が多い。

- ② 女性が地域活動等の方針決定の場に参画していくため必要なこととしては、「女性自身が積極的に社会参加の意識を持つ」が25.6%、「家族の理解と協力」が24.8%、「男性優位の組織体制や運営の改善」が16.0%、「女性の活動支援、学習の機会の充実」が14.2%である。女性の意識の向上、家族の理解、男性優位の組織体制や運営の改善などを挙げる人が多い。

(8) 男女共同参画社会を実現するために市はどんなことに取り組むべきか 問24

・「仕事と子育てや介護との両立のための制度の普及」が14.8%、「仕事と家庭生活の両立ができるよう事業者働きかけ」が11.2%、「学校での教育の充実」が10.7%、「広報誌やパンフレット、イベント等での啓発」が9.1%、「男性が家事、子育て、介護などに関心を高めるよう啓発」が8.6%、「ひとり親家庭への支援」が8.0%である。

制度の普及、事業者への働きかけ、教育の充実、啓発活動、ひとり親家庭への支援など、幅広い取り組みが必要であると考えます。

# 平成 28 年度男女共同参画に関する市民意識調査結果報告（概要）

市民協働環境部 男女共同参画課

## I 調査の概要

### 1 調査の目的

この調査は、飯田市の男女共同参画の現状や市民の考えを把握し、次期飯田市男女共同参画計画策定にあたっての基礎資料とすることを目的とする。

### 2 調査の方法

- (1) 調査対象 飯田市に住む 20 歳以上の男女 1,000 人
- (2) 抽出方法 住民基本台帳から男女別、年齢別人口比率の調整による無作為抽出
- (3) 調査期間 平成 28 年 7 月 20 日～8 月 31 日
- (4) 調査方法 郵送による配布・回収

### 3 回収状況

有効回収数 379 通 有効回収率 37.9%  
内訳 男性： 177 通 有効回収率 35.4%  
女性： 202 通 有効回収率 40.4%  
回収率は前回調査時の 47.4%から 9.5 ポイント減少した。

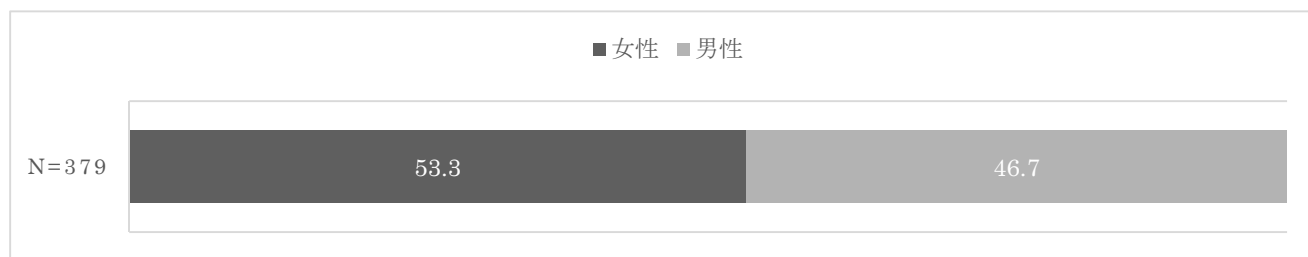
## II 調査結果

百分率は小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、内訳の合計が 100.0%にならない場合がある。

### 1 回答者属性

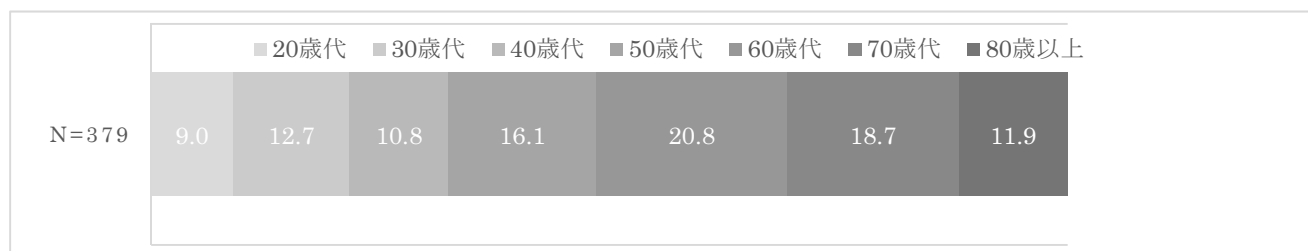
問 1 あなたの性別を教えてください。

「女性」の割合が 53.3%、「男性」の割合が 46.7%となっている。

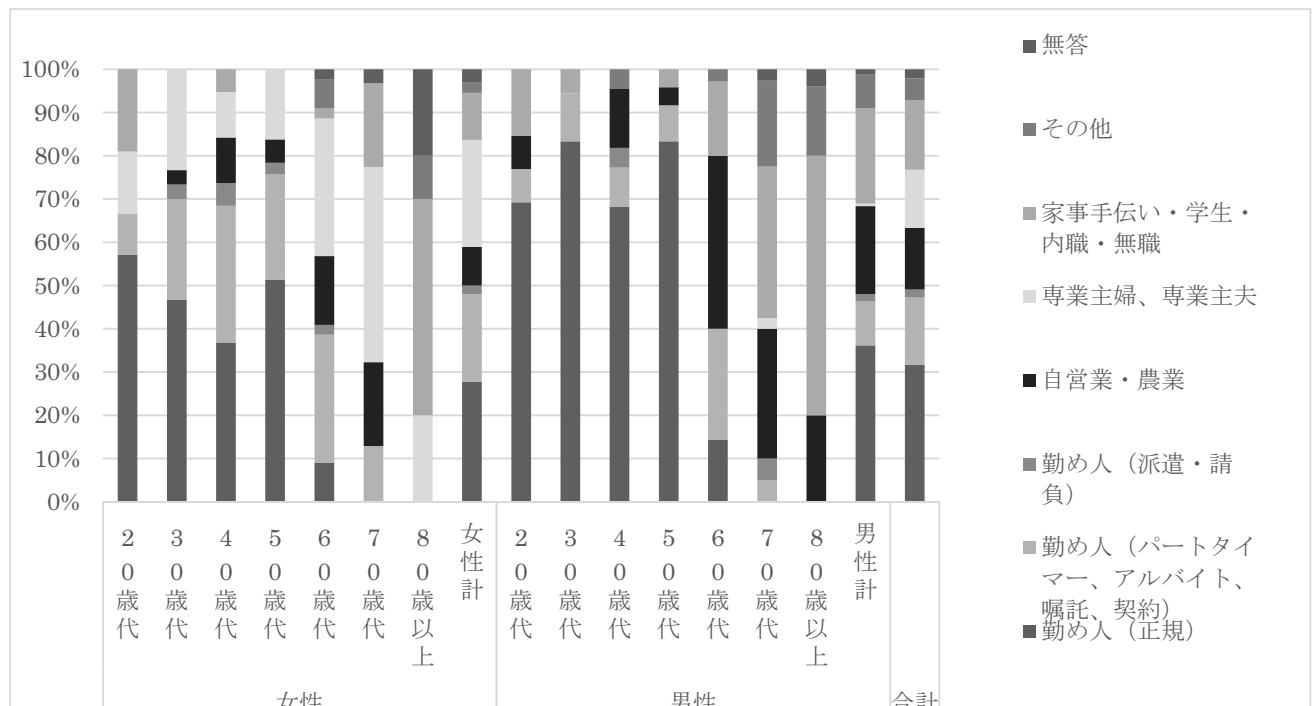


問 2 あなたの年齢を教えてください。

「60 歳代」の割合が 20.8%と最も高く、次いで「70 歳代」が 18.7%、「50 歳代」が 16.1%となっている。

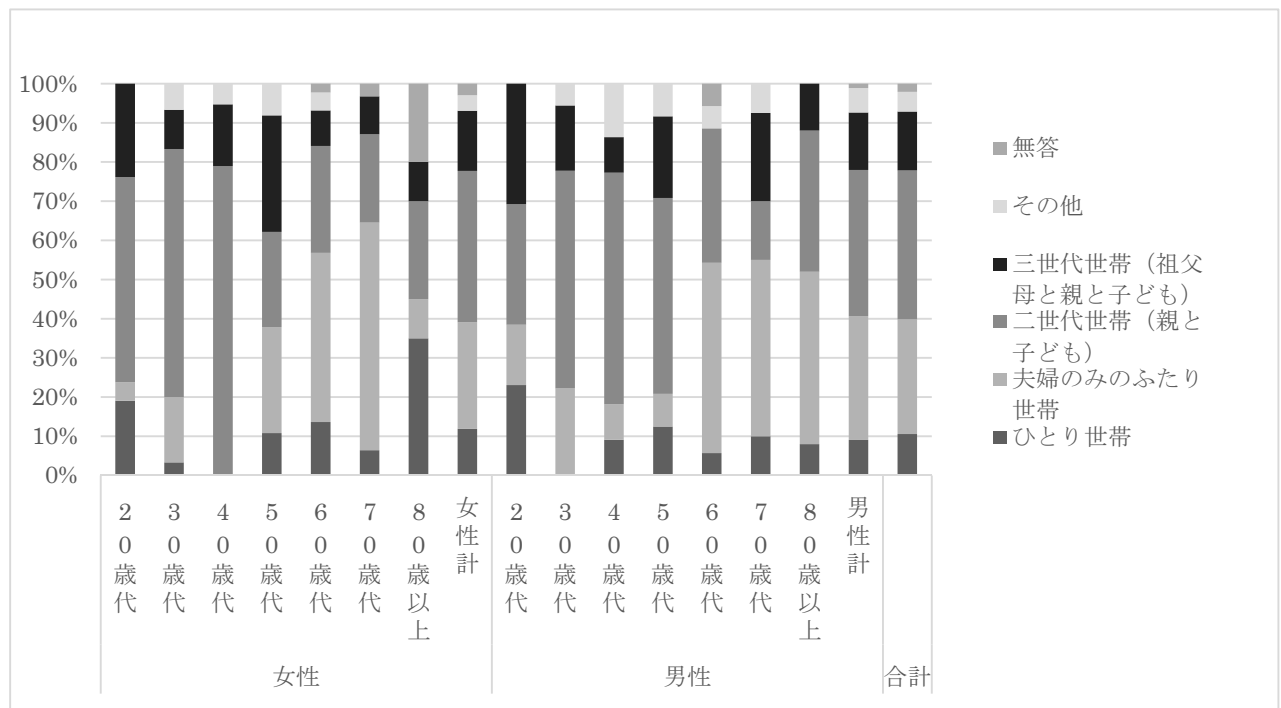


問3 あなたの職業を教えてください。



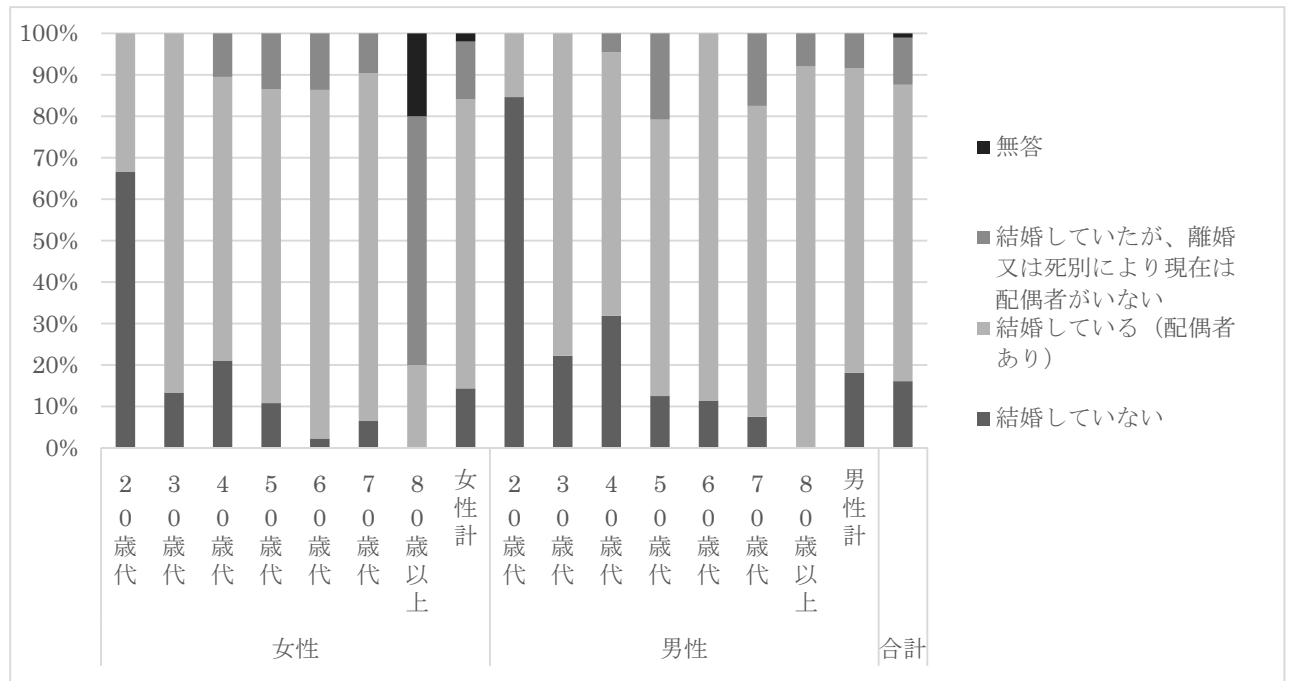
- ① 割合の多い職業は、男性は「勤め人(正規)」次に「自営業・農業」。女性は「勤め人(正規)」「専業主婦」次に「勤め人(パート)」となっている。
  - ② 男性は50歳代まで「勤め人(正規)」が多く、60歳代から「自営業・農業」が多くなる。
  - ③ 女性は50歳代まで「勤め人」が多いが、30歳代から「勤め人(パート)」が多くなる。
  - ④ 男性も女性も50歳代より40歳代で「勤め人(正規)」が少ない。
- ※5年前の調査より、女性の「勤め人(正規)」「勤め人(パート)」が増えている。

問4 あなたの家族構成を教えてください。



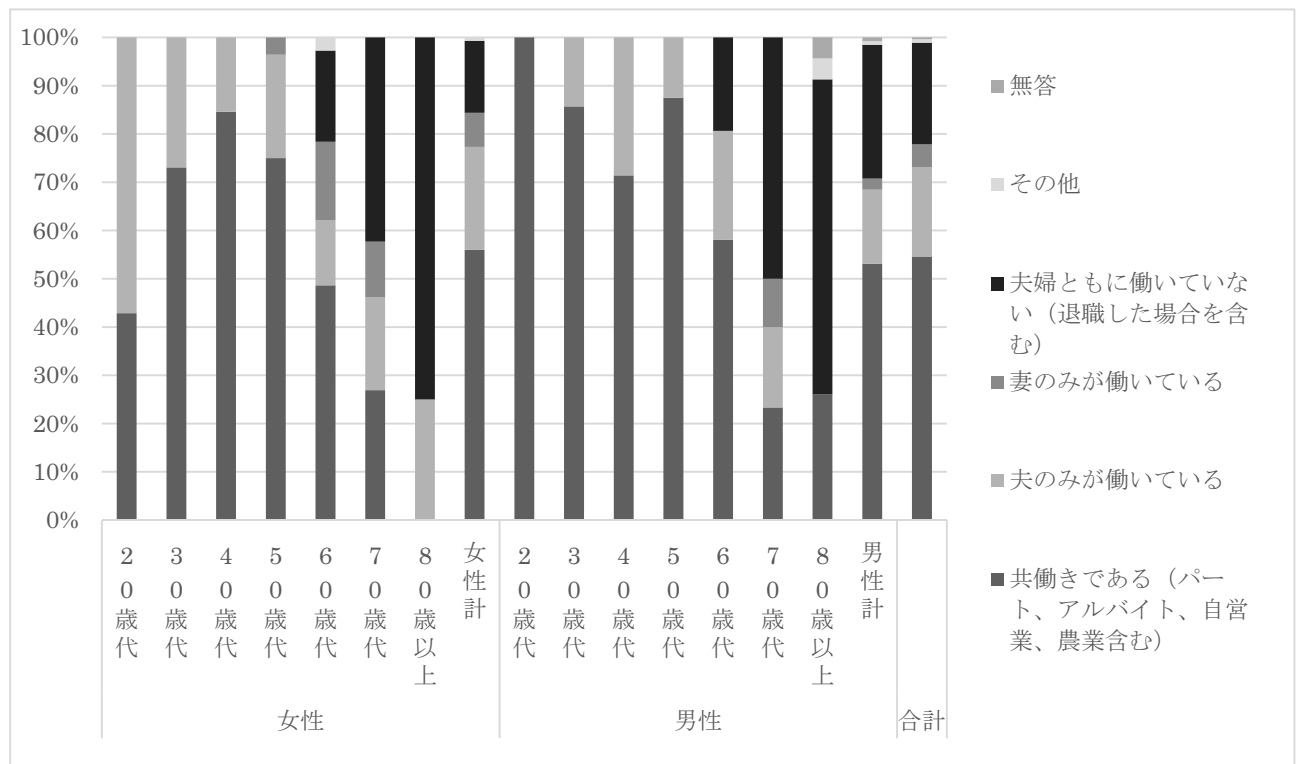
- ① 各年代で二世帯や三世帯世帯が多い。
- ② 20歳代にひとり世帯が多い。
- ③ 60歳代から二人世帯が多くなる。80歳以上の女性に一人世帯が多い。

問5 あなたは結婚していますか。



- ① 回答者の87.6%が結婚経験があり、71.5%のひとが「結婚している(配偶者あり)」となっている。
- ② 80歳代の女性に「結婚していたが、離婚又は死別により現在は配偶者がいない」が多い。

問5 - 1 全問5で「2結婚している(配偶者あり)」と回答した人の就労状況

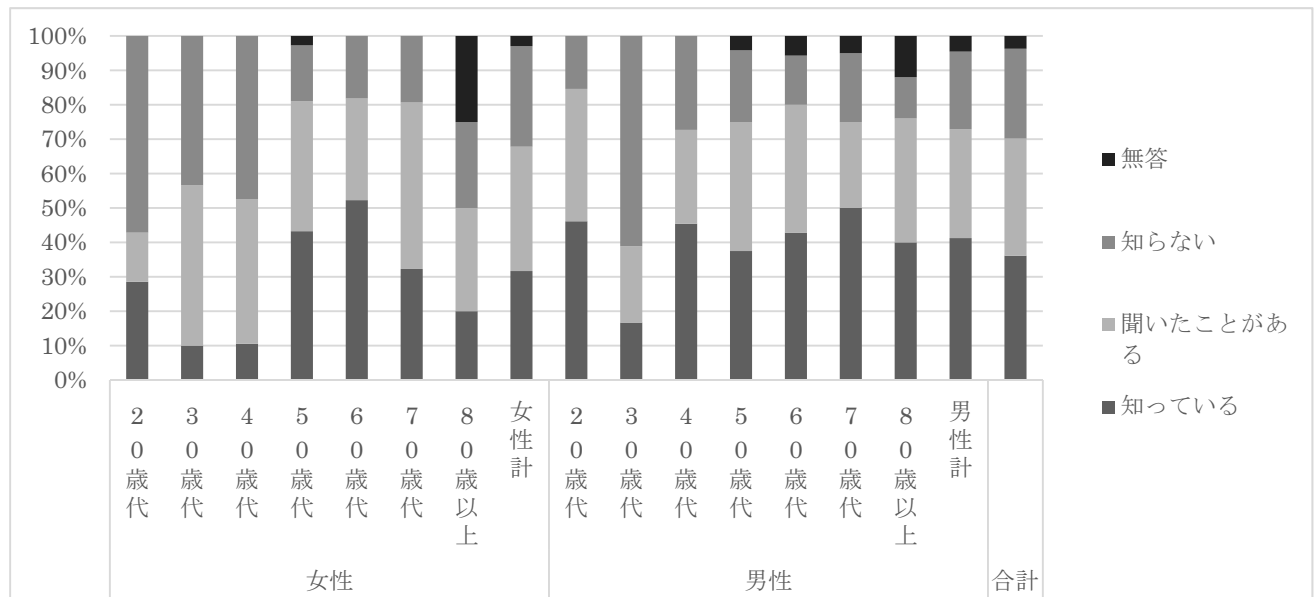


- ① 回答者の54.6%の人が「共働きである」と回答している。
- ② 女性の30歳代の73.1%、40歳代の84.6%が「共働きである」であり、子育て世代の共働きが多い。

## 2 男女の役割や地位に関する意識について

問6 あなたは次のことがらについて、知っている又は聞いたことがありますか。

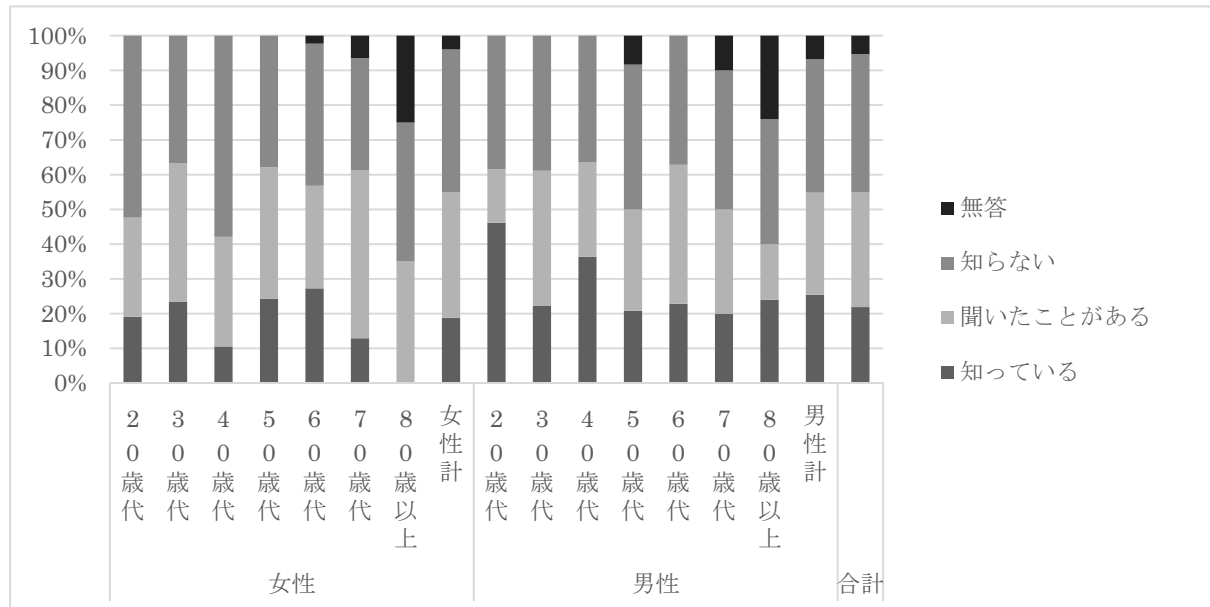
### (1) 男女共同参画社会



- ① 回答者のうち、「知っている」「聞いたことがある」が70.1%を占めている。
- ② 女性の30歳代～40歳代、男性の30歳代は「知っている」と回答した人が少ない。
- ③ 前回調査との合計比較

	H28年	H23年度
知っている	36.1%	29.9%
聞いたことがある	34.0%	43.8%
知らない	26.1%	26.2%

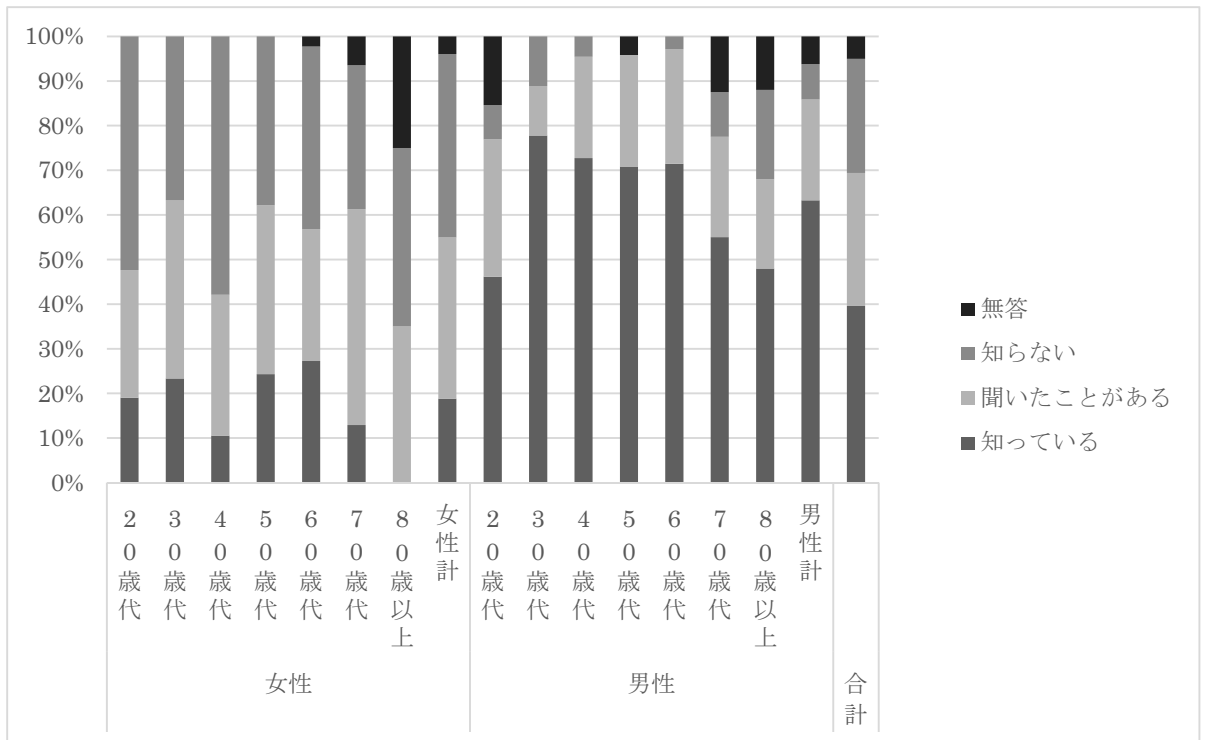
### (2) ワーク・ライフ・バランス



- ① 回答者のうち、「知っている」「聞いたことがある」が54.9%を占めている。前回より10.7ポイント増加した。
- ② 女性の40歳代、70歳代以上が「知っている」と回答した人が少ない。
- ③ 前回調査との合計比較

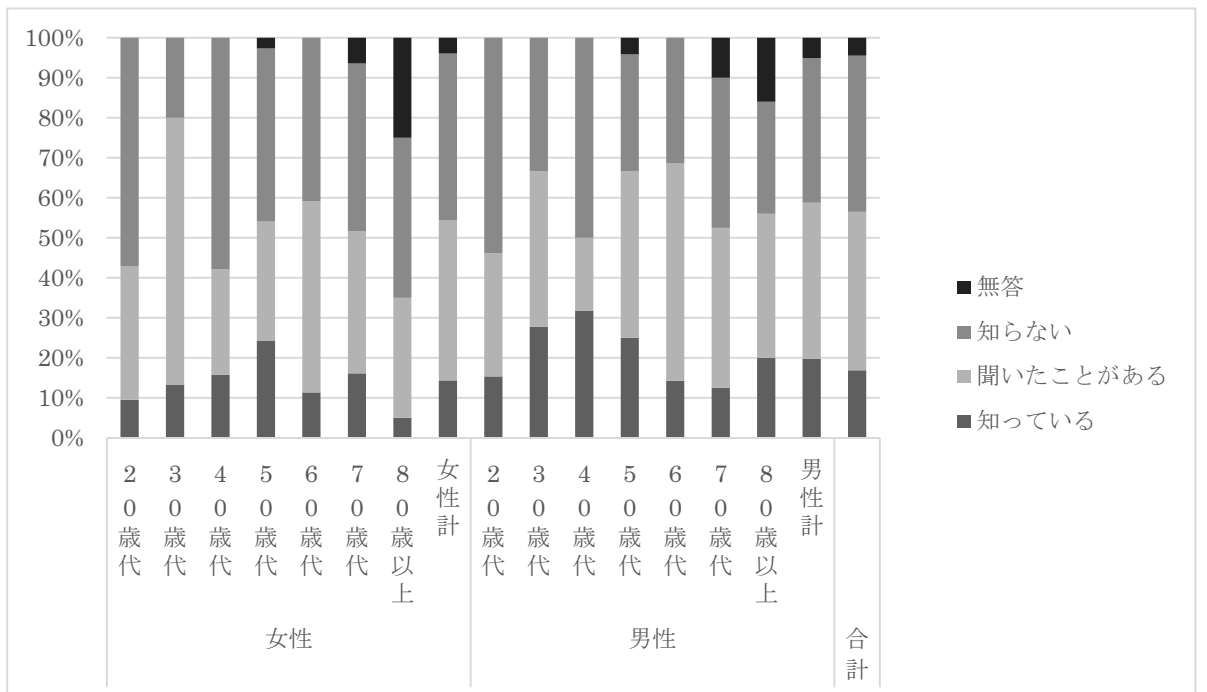
	H28年	H23年度
知っている	21.9%	13.2%
聞いたことがある	33.0%	31.0%
知らない	39.8%	55.8%

(3) 男女雇用機会均等法



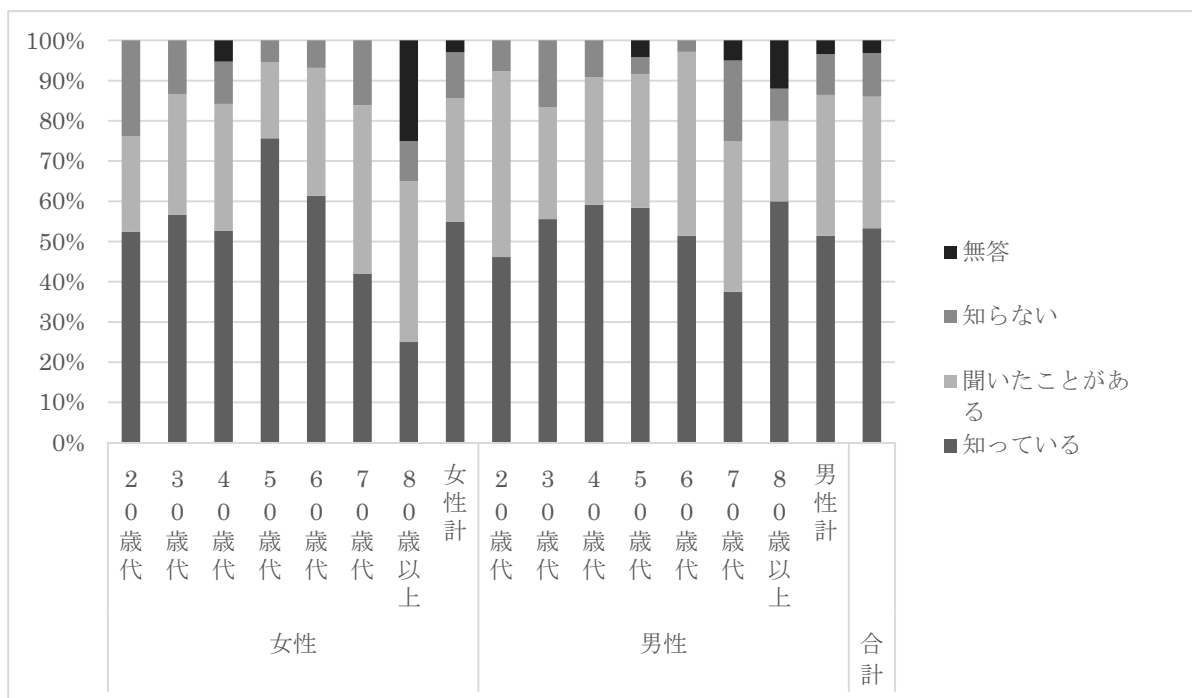
- ① 回答者のうち「知っている」「聞いたことがある」が69.4%を占めている。
- ② 男性と比べて女性の「知っている」と答えた人が少ない。特に40歳代、70歳以上の女性が少ない。

(4) 女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）



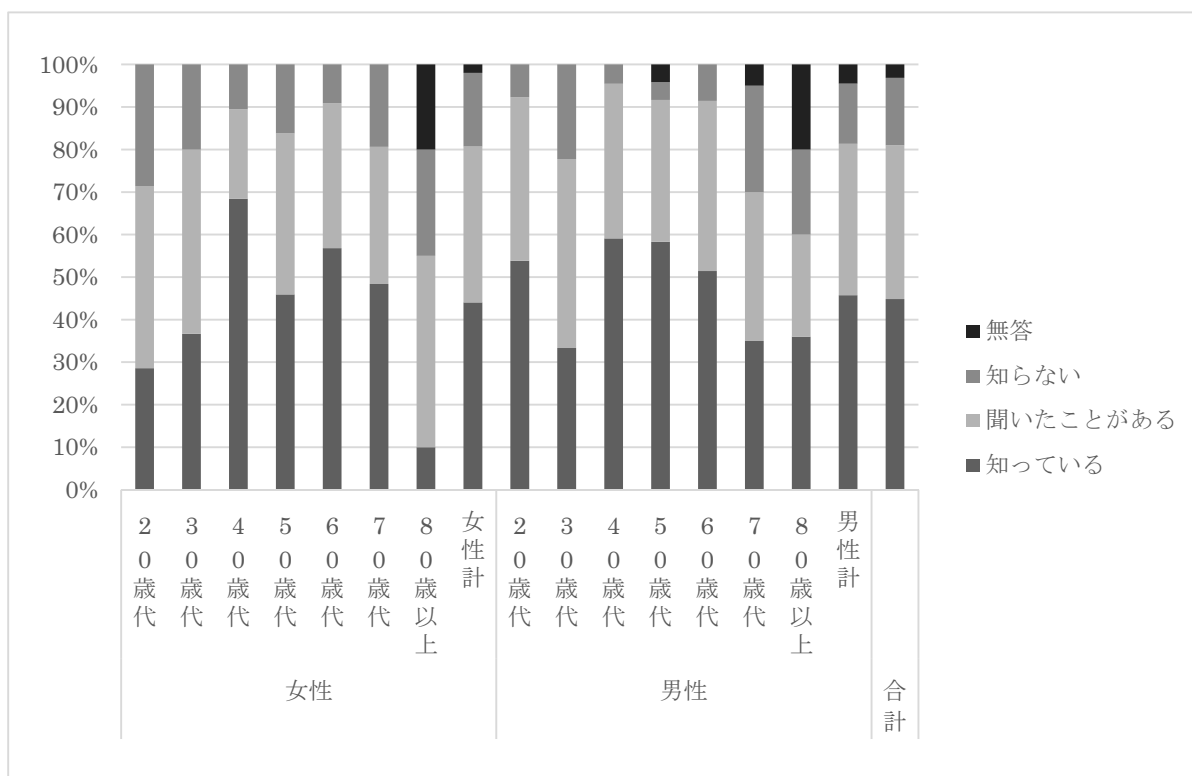
- ① 回答者のうち「知っている」「聞いたことがある」が56.5%を占めている。
- ② 男性と比べて女性の「知っている」と答えた人が少ない。特に20～40歳代、60歳以上の女性が少ない。

(5) 育児・介護休業法



① 回答者のうち「知っている」「聞いたことがある」が86%と高い割合を占めている。また、「知っている」が53.3%で、男女、年齢を問わず、高い割合である。

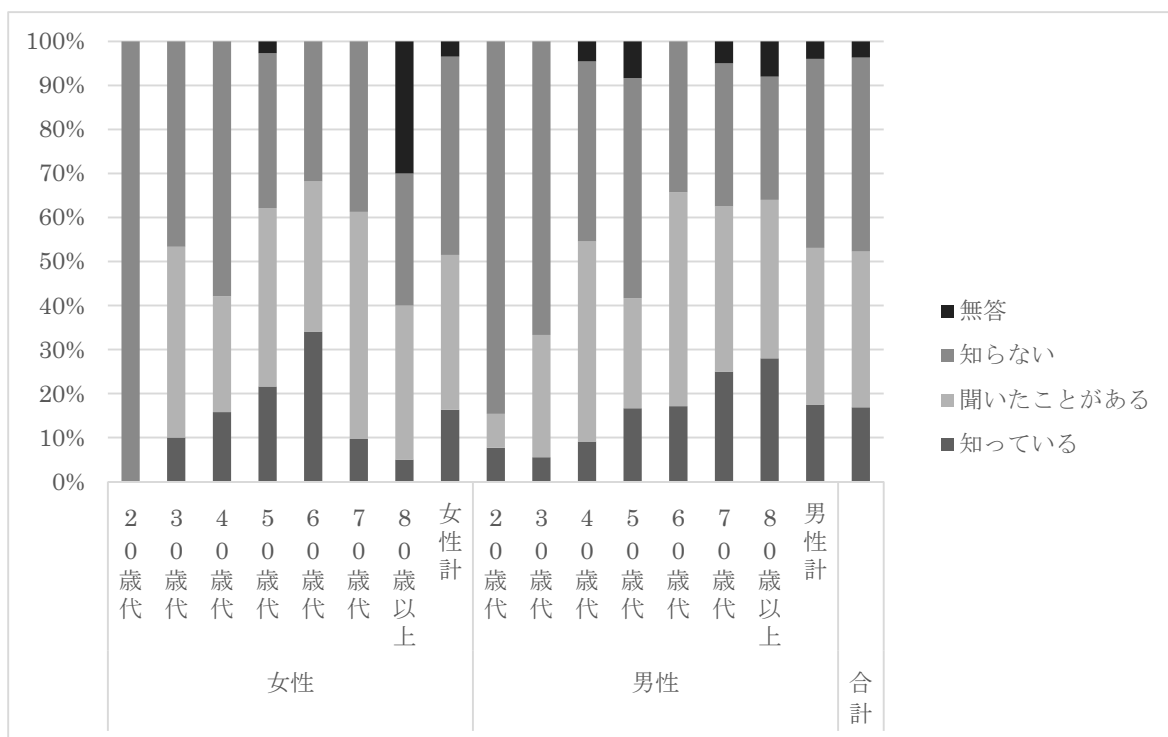
(6) 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV防止法）



- ① 回答者のうち「知っている」「聞いたことがある」が81%で高い割合を占めている。  
 ② 女性の20～30歳代、80歳以上、男性の30歳代、70歳以上で「知っている」の占める割合が若干低くなっている。



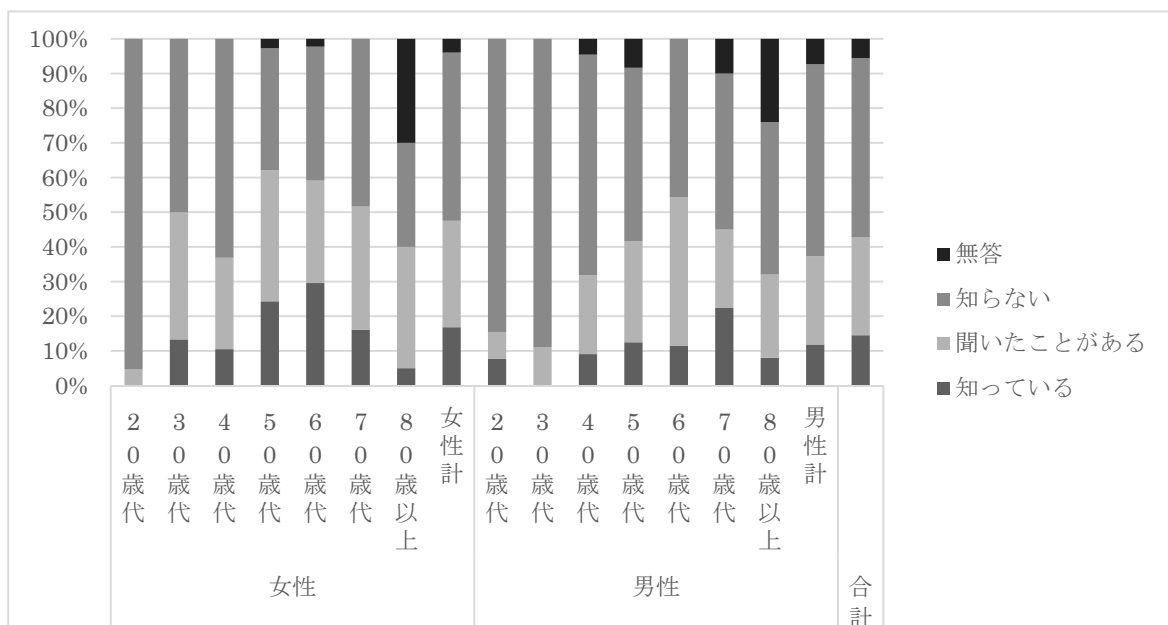
(7) 飯田市男女共同参画計画



- ① 回答者のうち「知っている」「聞いたことがある」が52.3%を占めている。前回より16.8ポイント増加した。
- ② 女性の20～30歳代、70歳代以上、男性の20～40歳代が「知っている」と回答した人が少ない。
- ③ 前回調査との合計比較

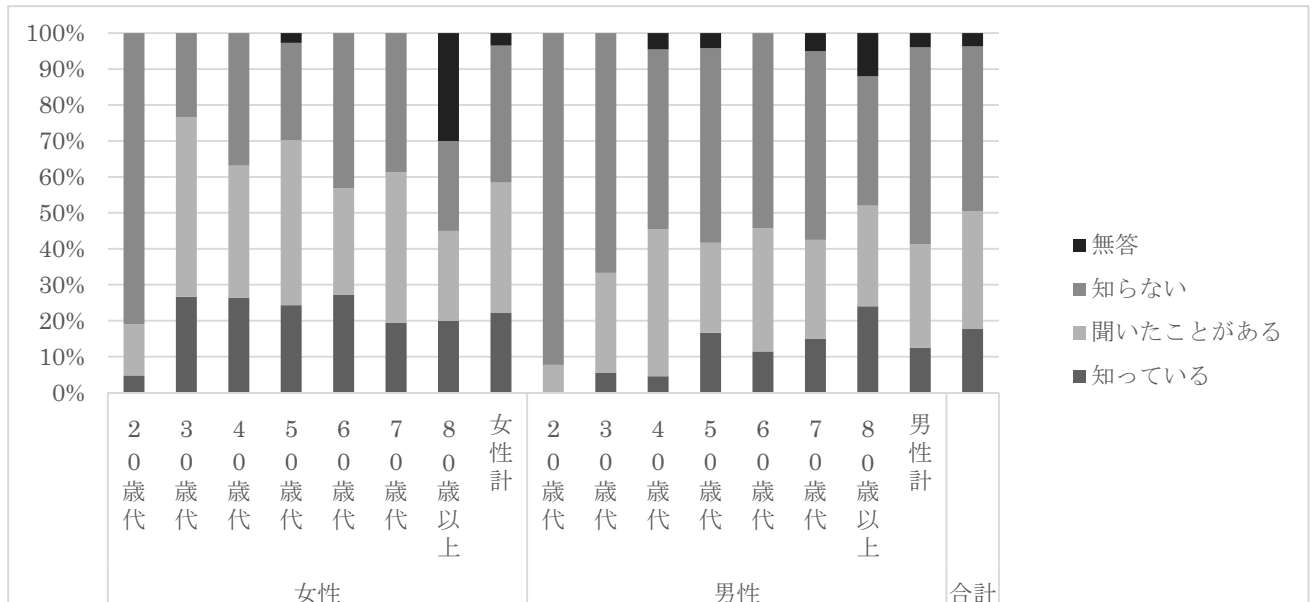
	H28年	H23年度
知っている	16.9%	6.7%
聞いたことがある	35.4%	28.8%
知らない	47.9%	64.5%

(8) 市民のつどい（市の男女共同参画啓発事業）



- ① 回答者のうち「知っている」「聞いたことがある」が42.7%を占めている。
- ② 女性の20～40歳代、80歳代以上、男性の20～60歳代、80歳以上が「知っている」と回答した人が少ない。

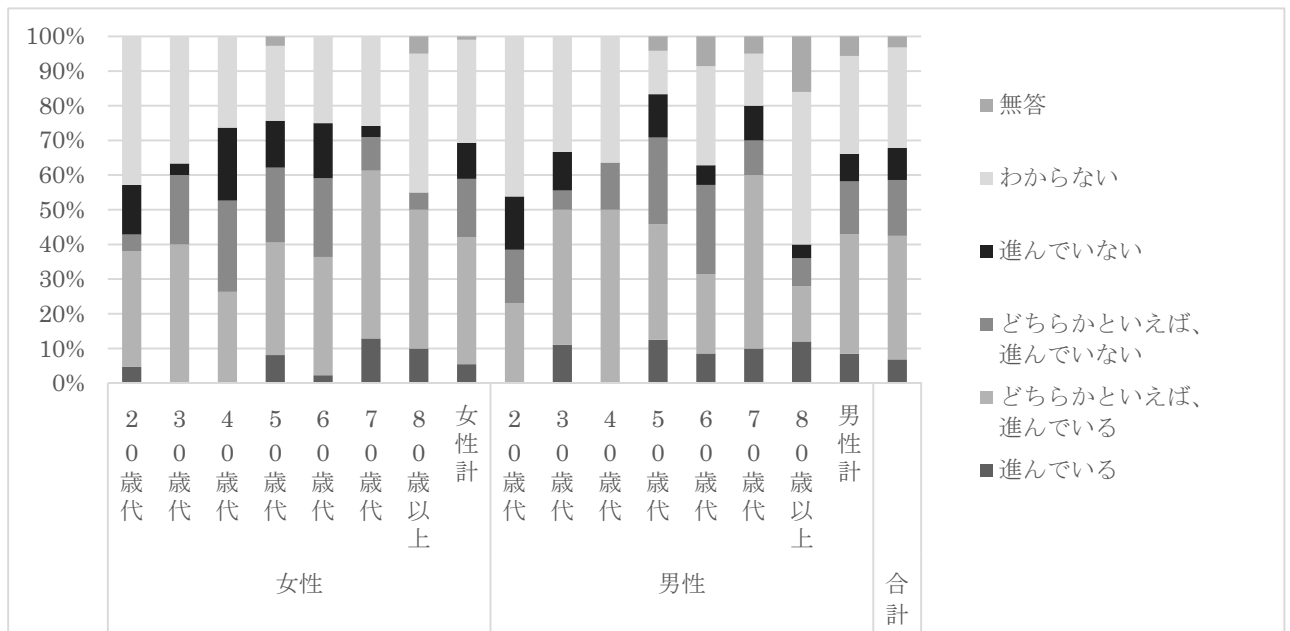
(9) 飯田市の女性の相談窓口や女性の無料法律相談窓口



- ① 回答者のうち「知っている」「聞いたことがある」が50.4%を占めている。前回より3.5ポイント増加した。
- ② 女性の20歳代、男性の20～40歳代が「知っている」と回答した人が少ない。
- ③ 前回調査との合計比較

	H28年	H23年度
知っている	17.7%	20.3%
聞いたことがある	32.7%	26.6%
知らない	45.9%	51.8%

問7 あなたは5年前に比べて、男女共同参画社会が進んでいると感じますか。

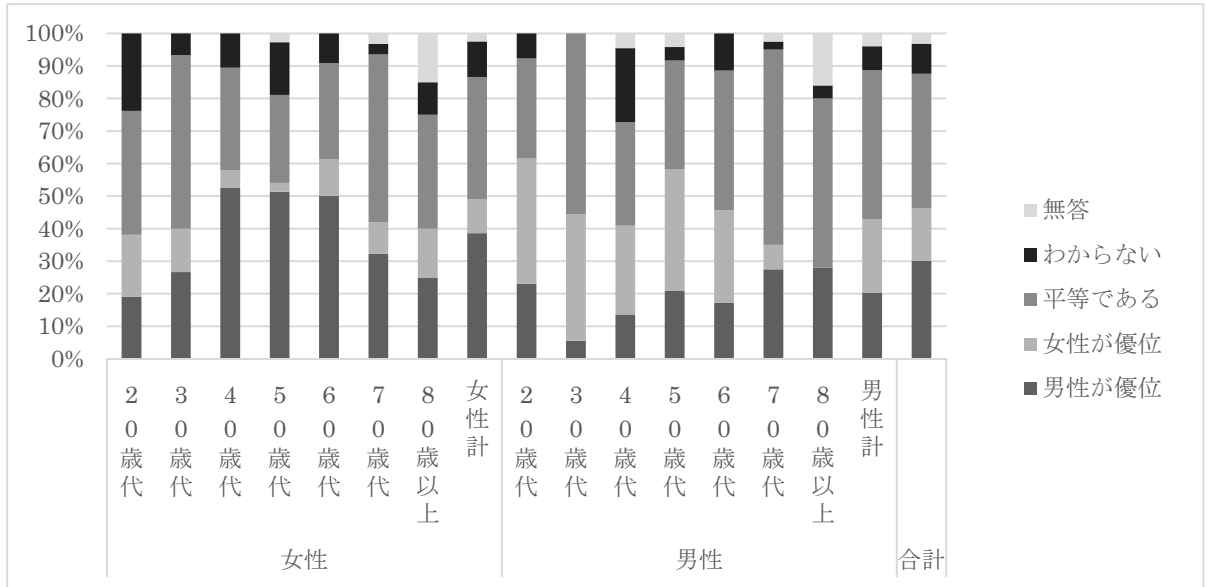


- ① 回答者のうち「進んでいる」「どちらかといえば進んでいる」は42.5%を占めている。
- ② 女性の40歳代と男性の20歳代、80歳以上が低くなっている。
- ③ 前回より「わからない」という回答が減少した。
- ④ 前回調査との合計比較

	H28年	H23年度
進んでいる	6.9%	8.6%
どちらかといえば進んでいる	35.6%	23.8%
どちらかといえば進んでいない	16.1%	7.8%
進んでいない	9.2%	5.9%
わからない	29.0%	51.1%

問8 あなたは、次のような場面で男女の立場についてどのように感じていますか。

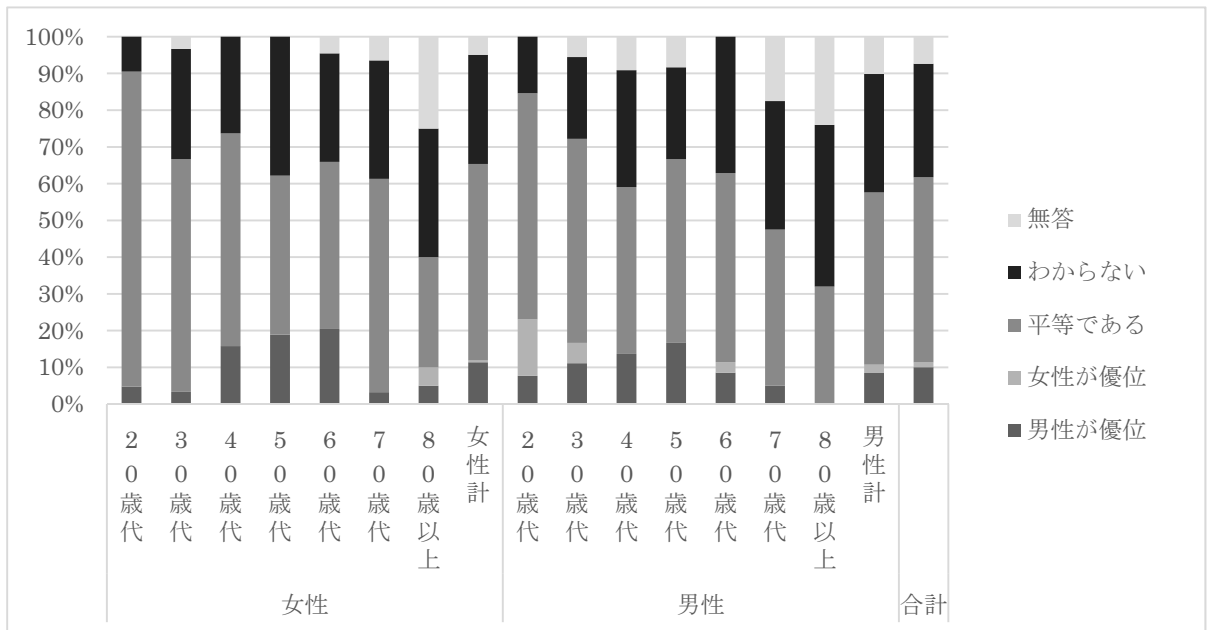
(1) 家庭では



- ① 回答者の41.4%が「平等である」と回答している。前回より8.8ポイント減少。
- ② 男性より女性の方が「男性が優位」と答えており、特に女性の40～60歳代が高い割合を占めている。
- ③ 前回調査との合計比較
 

	H28年	H23年度
男性が優位	30.1%	33.0%
平等である	41.4%	50.2%
女性が優位	16.1%	12.8%

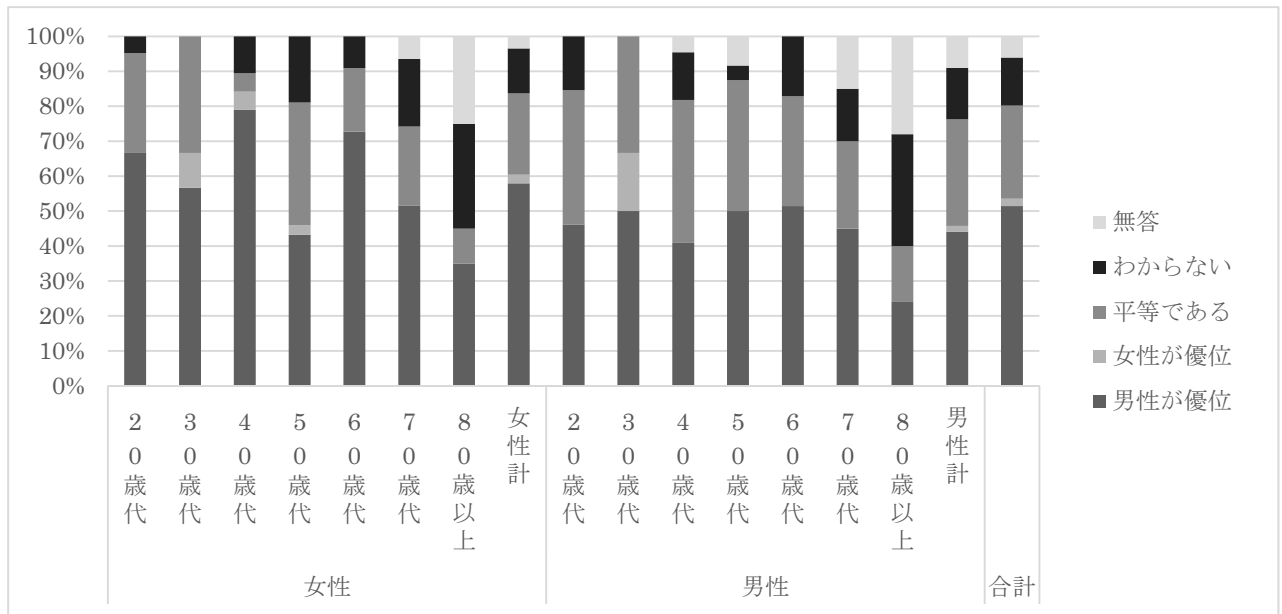
(2) 学校では



- ① 回答者の50.4%が「平等である」と回答している。年代ごとの差が少ない。
- ② 前回調査との合計比較
 

	H28年	H23年度
男性が優位	10.0%	8.4%
平等である	50.4%	60.8%
女性が優位	1.3%	2.9%

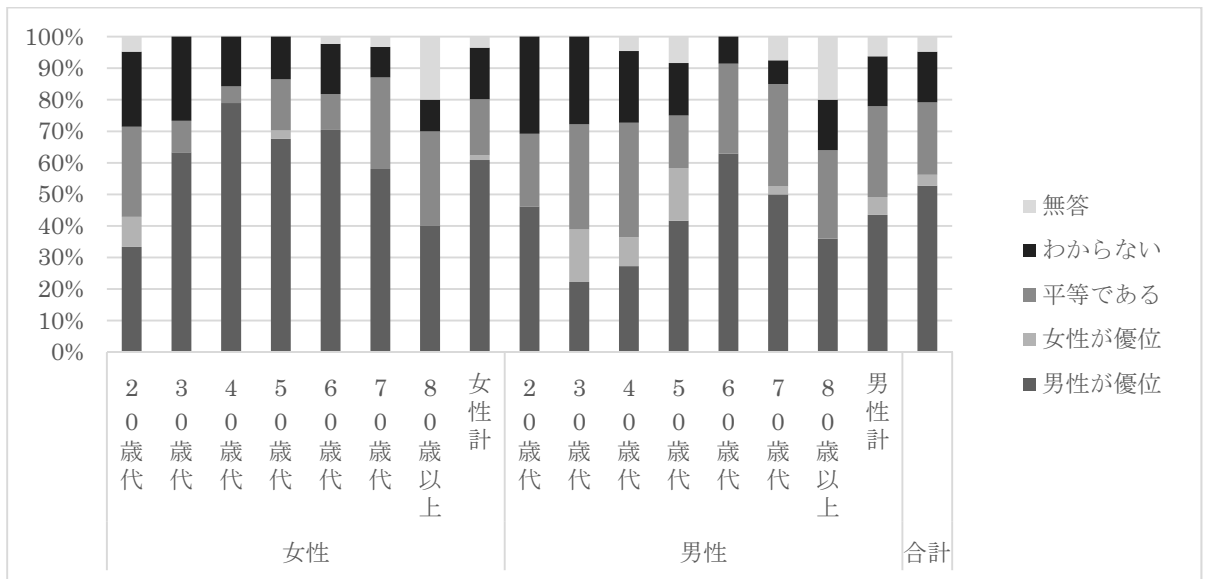
(3) 職場では



- ① 回答者の51.5%が「男性優位」と回答している。
  - ② 「平等である」と答えた人は男性の方が多い。
  - ③ 前回調査との合計比較

	H28年	H23年度
男性が優位	51.5%	47.6%
平等である	26.6%	35.1%
女性が優位	2.1%	2.7%
- ※「平等である」が8.5ポイント減少している。「女性が優位」の回答は少ない。

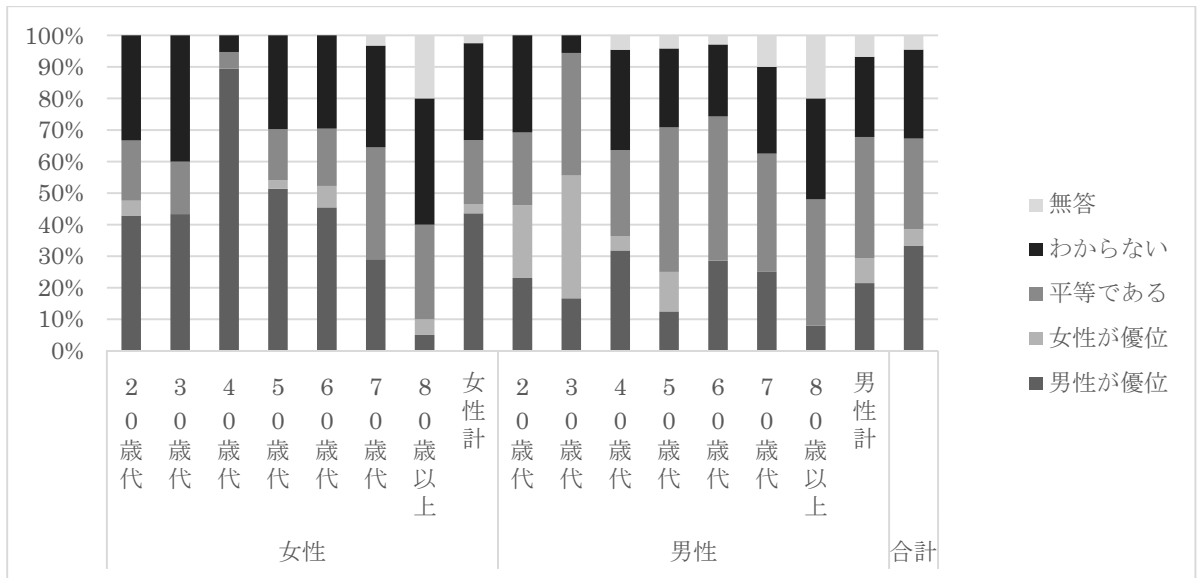
(4) 地域活動では



- ① 回答者の52.8%が「男性優位」と回答している。
- ② 女性の20歳代、男性の30～40歳代は「男性優位」が少ない。
- ③ 前回調査との合計比較

	H28年	H23年度
男性が優位	52.8%	55.9%
平等である	23.0%	29.7%
女性が優位	3.4%	2.2%

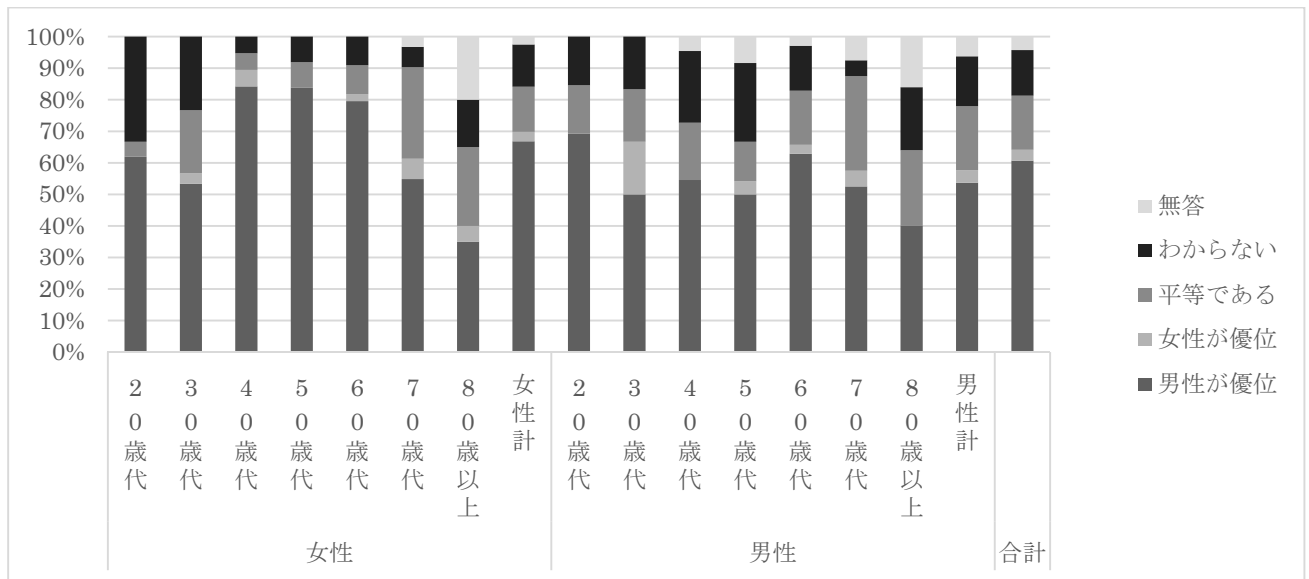
(5) 法律や制度は



- ① 回答者の33.2%が「男性優位」、28.8%が「平等である」と回答している。
  - ② 女性の80歳以上、男性の20～30歳代、50歳代、80歳以上は「男性優位」が少ない。
  - ③ 前回調査との合計比較

	H28年	H23年度
男性が優位	33.2%	32.2%
平等である	28.8%	44.4%
女性が優位	5.3%	2.8%
- ※「平等である」が13.1ポイント減少している。

(6) 習慣・しきたりは



- ① 回答者の60.7%が「男性優位」と回答している。
- ② 女性の40～60歳代で、「男性優位」が高い割合を占めている。
- ③ 前回調査との合計比較

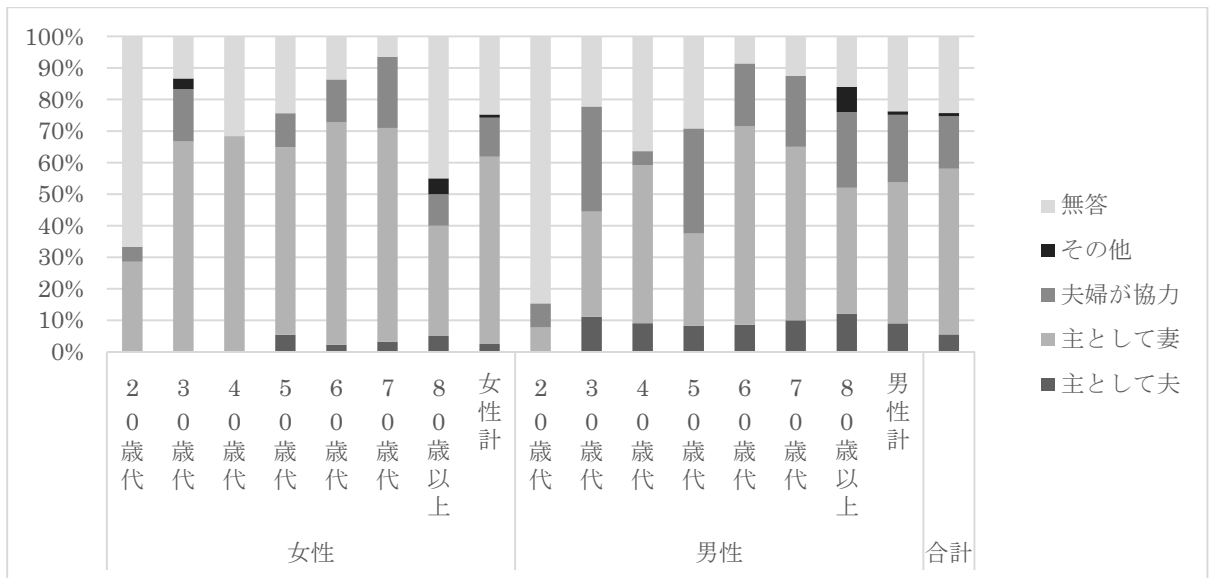
	H28年	H23年度
男性が優位	60.7%	64.1%
平等である	17.2%	21.1%
女性が優位	3.4%	4.6%

※男性が優位という傾向にあまり変わらない。

### 3 家庭生活に関わる事について

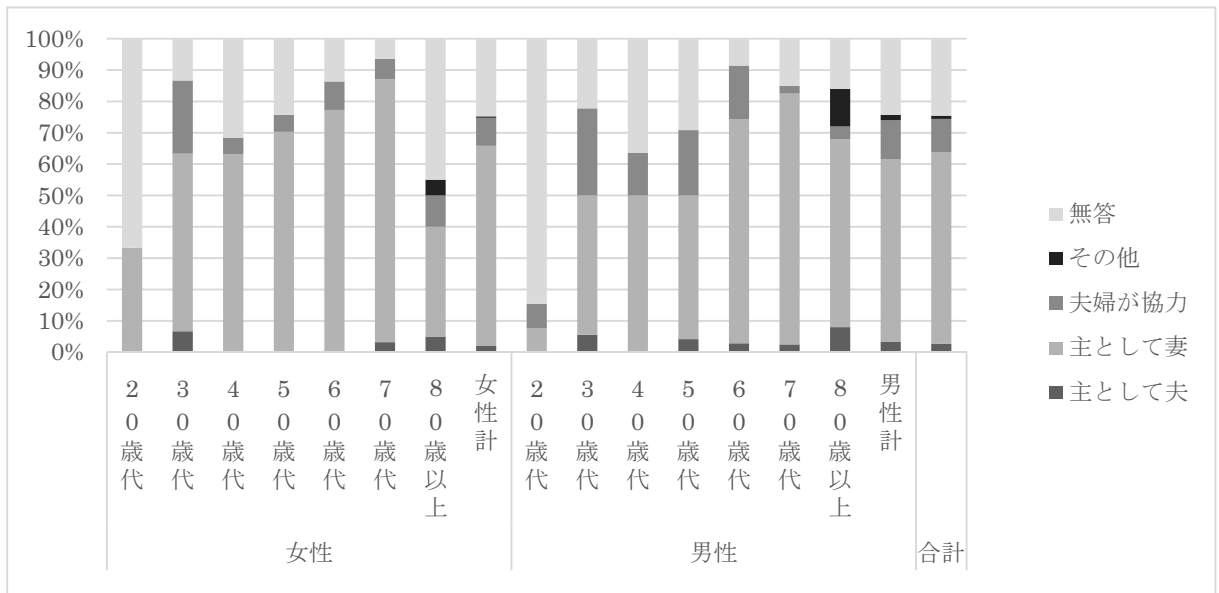
問9 【結婚している方におたずねします。】次に掲げる日常的な仕事は、主に夫婦どちらが行っていますか。

#### (1) 掃除



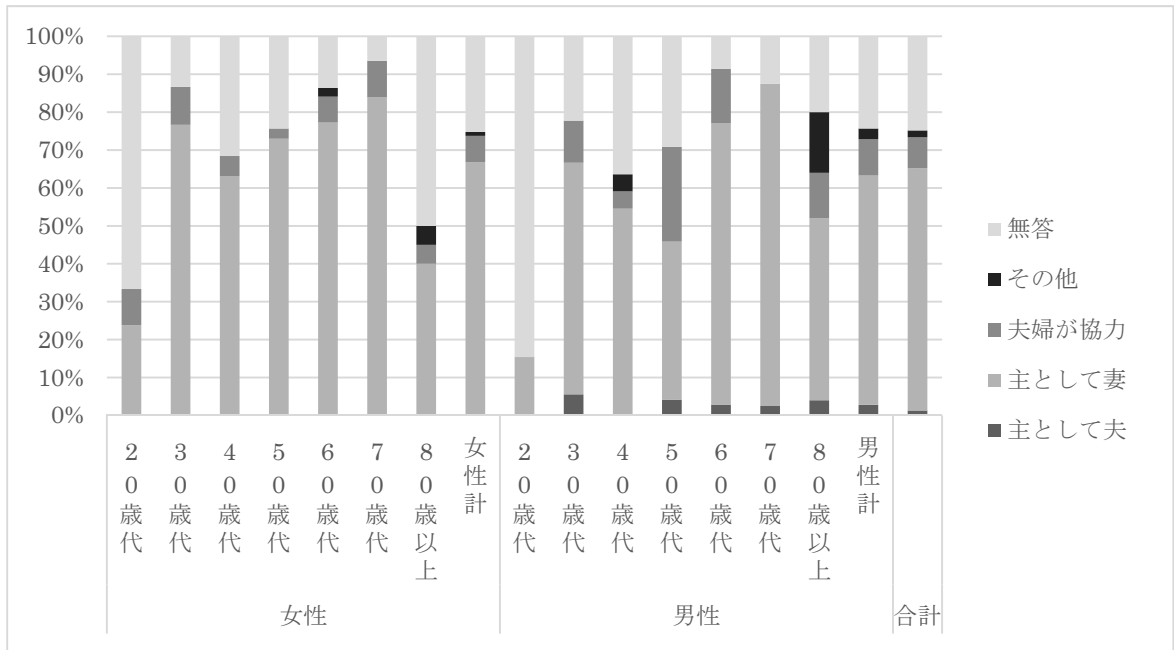
- ① 回答者の52.5%が「主として妻」と回答している。
- ② 女性より男性の方が「夫婦が協力」が高い割合を占めている。

#### (2) 洗濯



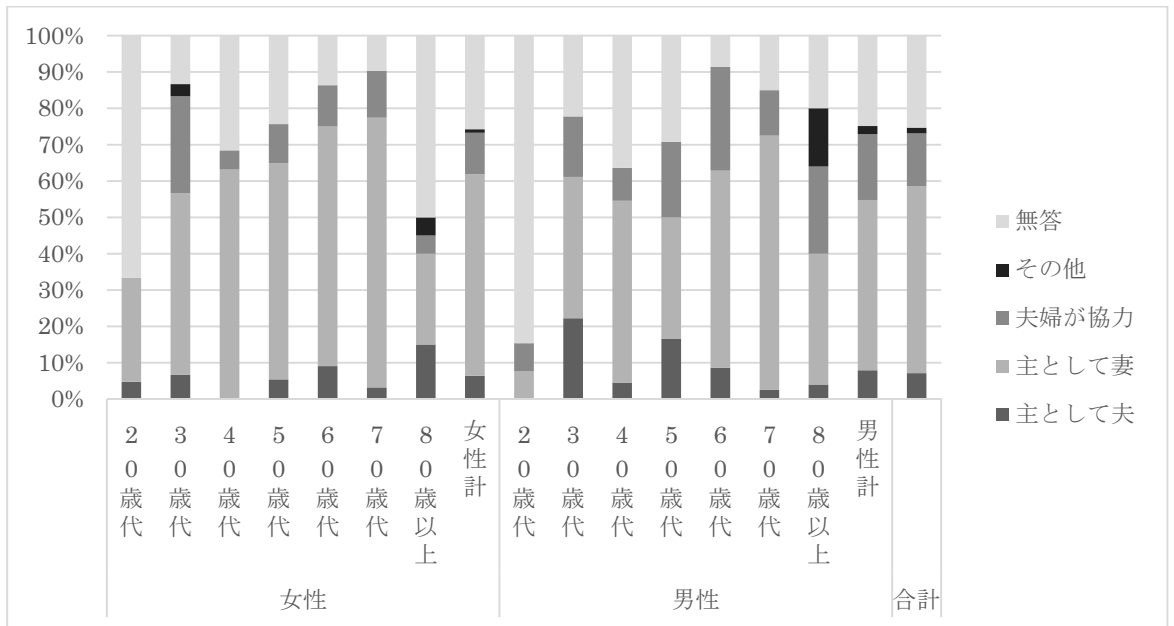
- ① 回答者の61.2%が「主として妻」と回答している。
- ② 女性より男性の方が「夫婦が協力」が高い割合を占めている。

(3) 食事の支度



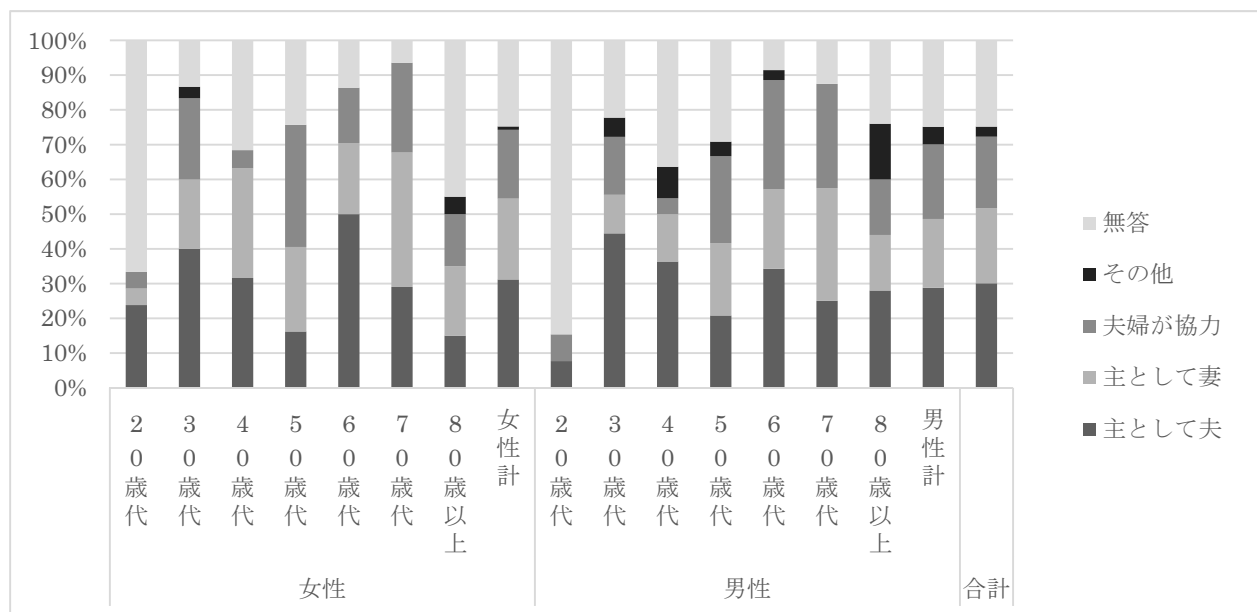
- ① 回答者の63.9%が「主として妻」と回答している。
- ② 女性より男性の方が「夫婦が協力」が高い割合を占めている。

(4) 食事のかたづけ



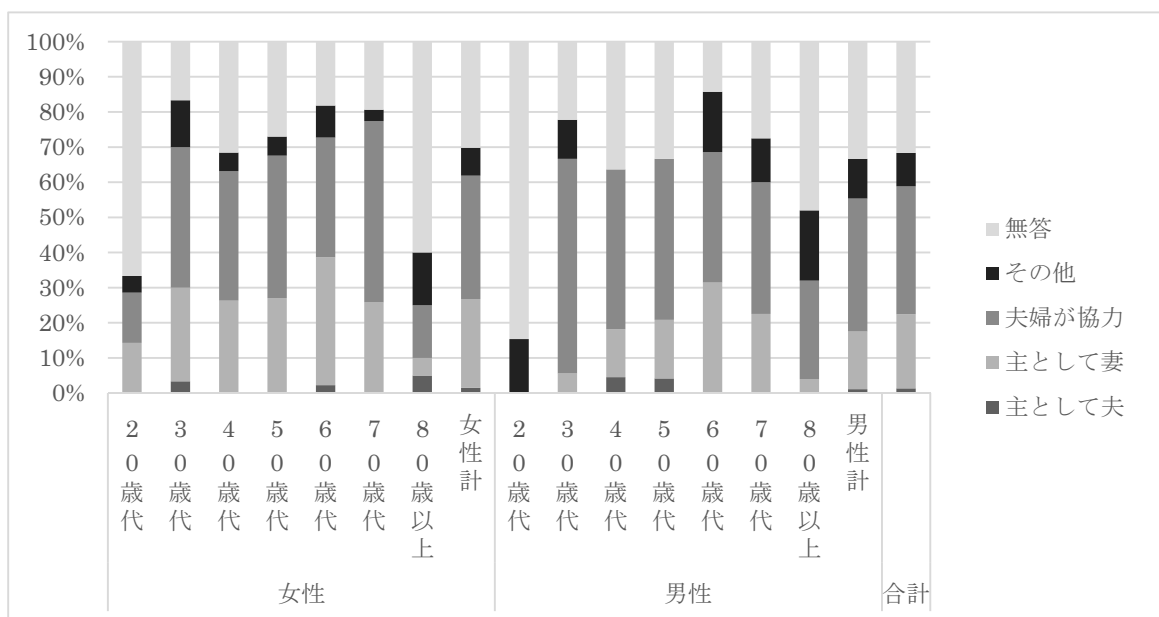
- ① 回答者の51.5%が「主として妻」と回答している。
- ② 女性より男性の方が「夫婦が協力」が高い割合を占めている。

(5) ゴミ出し



- ① 回答者の30.1%が「主として夫」21.6%が「主として妻」20.6%が「夫婦が協力」と回答している。
- ② 女性の30歳代、50歳代、男性の50～70歳代が「主として夫」が高い割合を占めている。

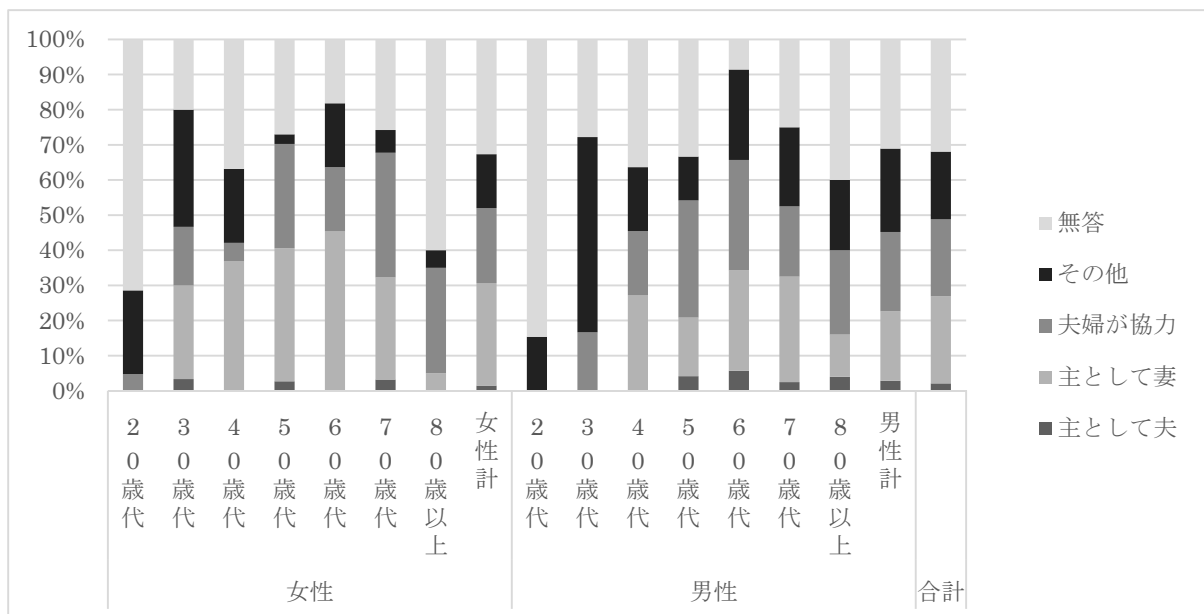
(6) 子どものしつけ・教育



- ① 回答者の36.4%が「夫婦が協力」21.1%が「主として妻」と回答している。
- ② 男性、女性で回答にあまり差がない。

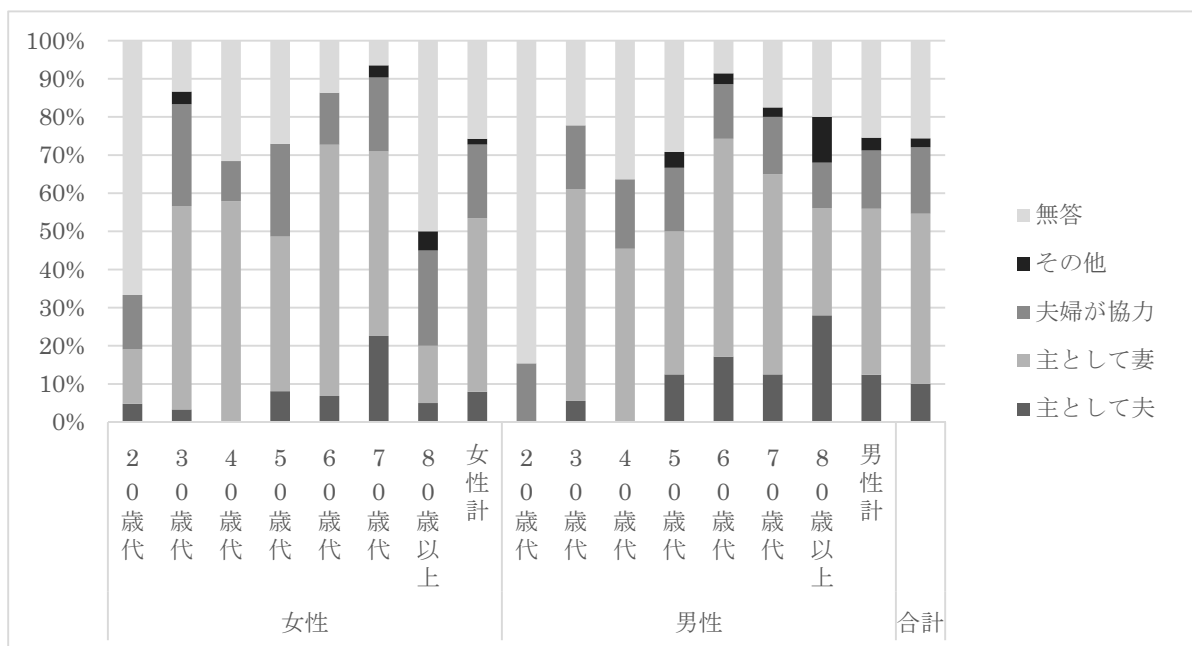


(7) 家族の介護・看護



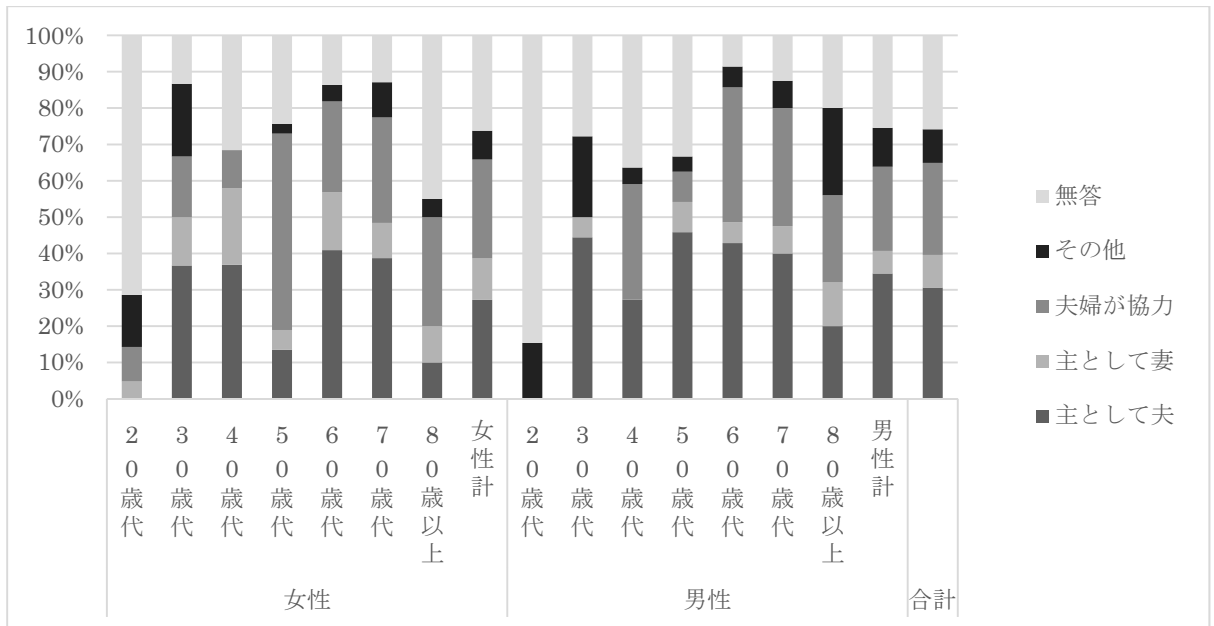
- ① 回答者の24.8%が「主として妻」21.9%が「夫婦が協力」19.3%が「その他」と回答している。
- ② 女性、男性の30歳代で「その他」が高い割合を占めている。

(8) 家計の管理



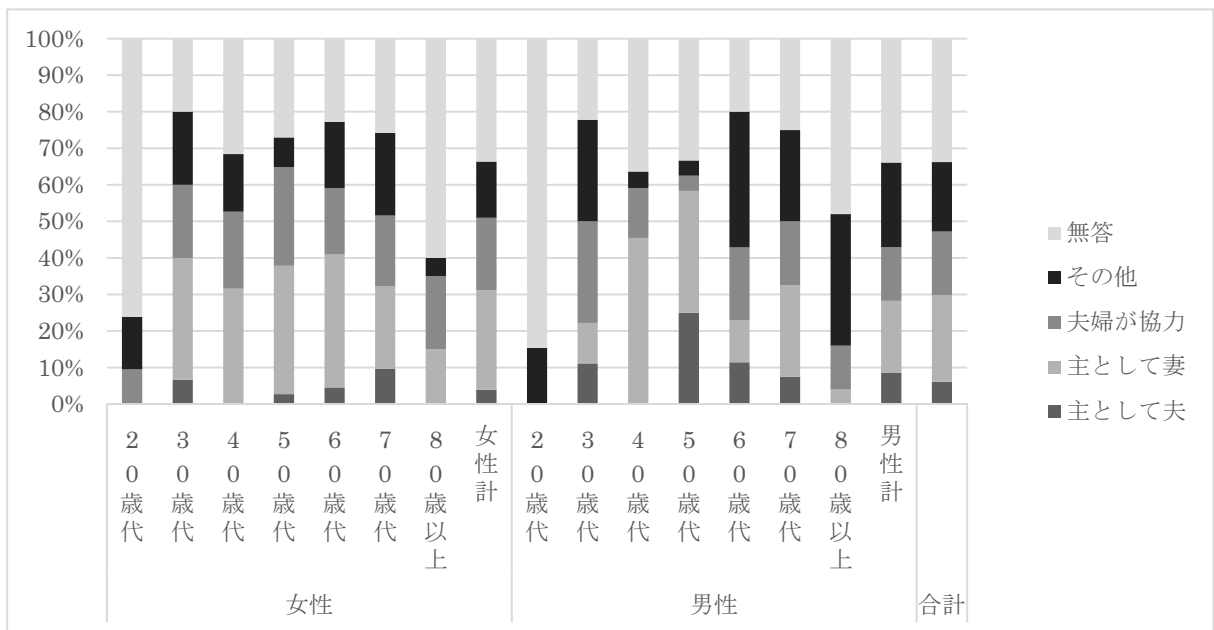
- ① 回答者の44.6%が「主として妻」と回答している。
- ② 男性、女性で回答にあまり差がない。

(9) 地域活動への参加



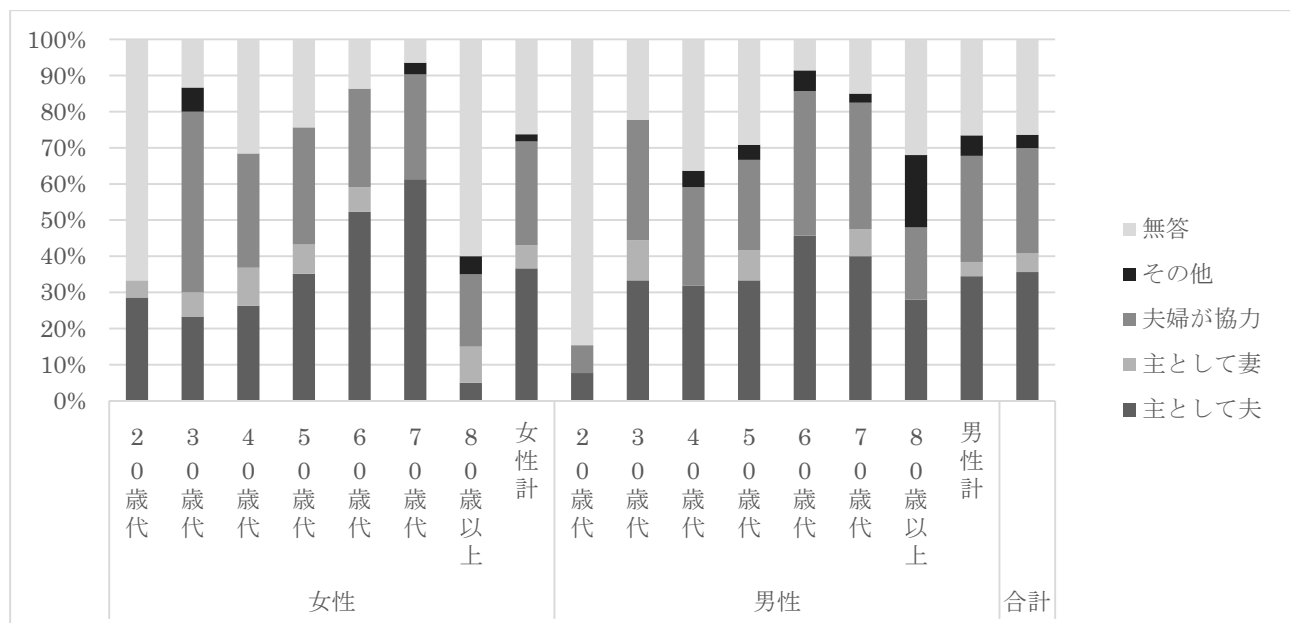
- ① 回答者の30.6%が「主として夫」25.3%が「夫婦が協力」と回答している。
- ② 女性の50歳代で「夫婦が協力」が高い割合を占めている。

(10) 保護者会やPTA活動



- ① 回答者の23.7%が「主として妻」17.4%が「夫婦が協力」19.0%が「その他」と回答している。
- ② 女性の30～60歳代、男性の40～50歳代で「主として妻」が高い割合を占めている。

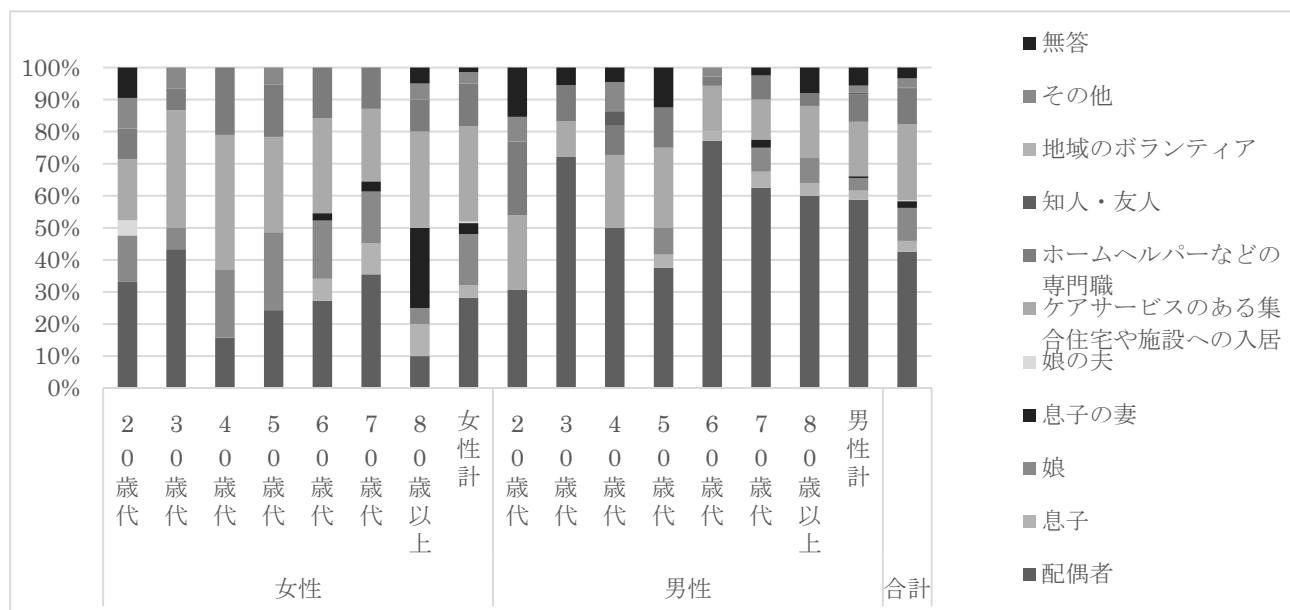
(11) 家庭問題における最終的な決定



① 回答者の35.6%が「主として夫」29.0%が「夫婦が協力」と回答している。

② 女性の60～70歳代で「主として夫」が高い割合を占めている。

問10 あなたは、日常生活が不自由な状態になったとき、誰に介護をお願いしたいと思っていますか。



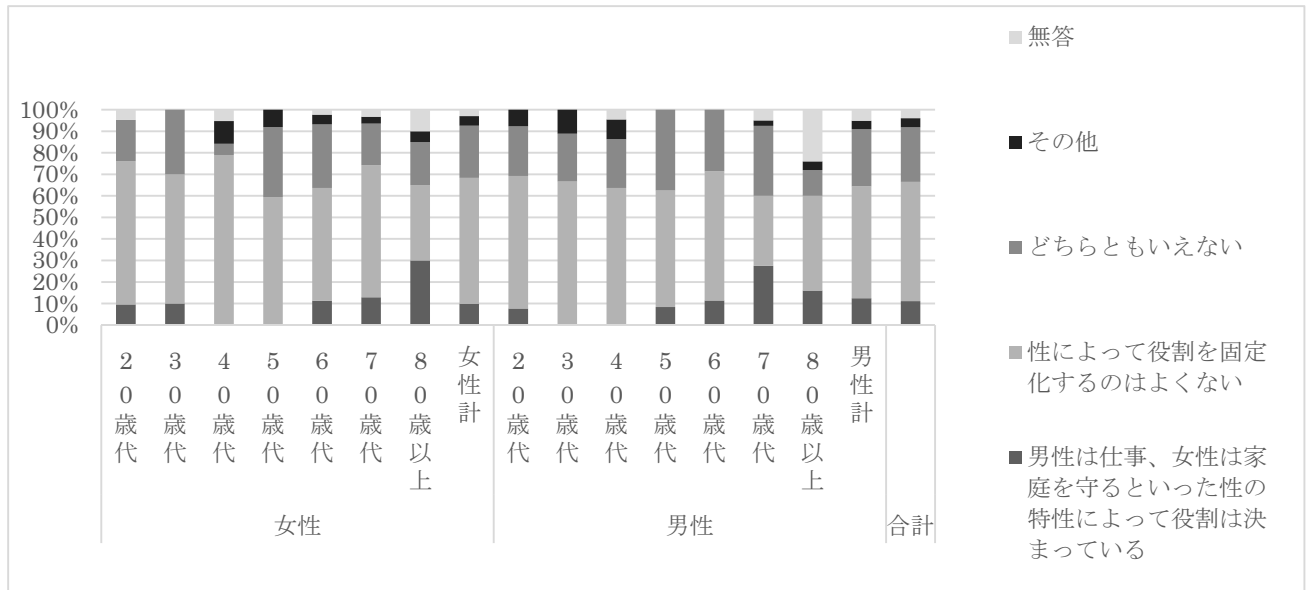
① 回答者の42.5%が「配偶者」23.7%が「ケアサービスのある集合施設や施設への入居」11.1%が「ホームヘルパーなどの専門職」、10.3%が「娘」と回答している。

② 女性より男性の方が「配偶者」が高い割合を占めている。

前回調査との合計比較	H28年	H23年度
配偶者	42.5%	46.2%
息子	3.4%	5.6%
娘	10.3%	7.1%
息子の配偶者	2.1%	3.7%
娘の配偶者	0.3%	0.0%
施設入所	23.7%	18.1%
ホームヘルパー	11.1%	9.9%

前回調査との比較では、家族介護（「配偶者」「息子」「娘」「息子の妻」「娘の夫」）は4ポイント減少している。

問 11 あなたは、「男は仕事、女は家庭」というように、性別によって役割を固定することについて、考え方が最も近いものはどれですか。

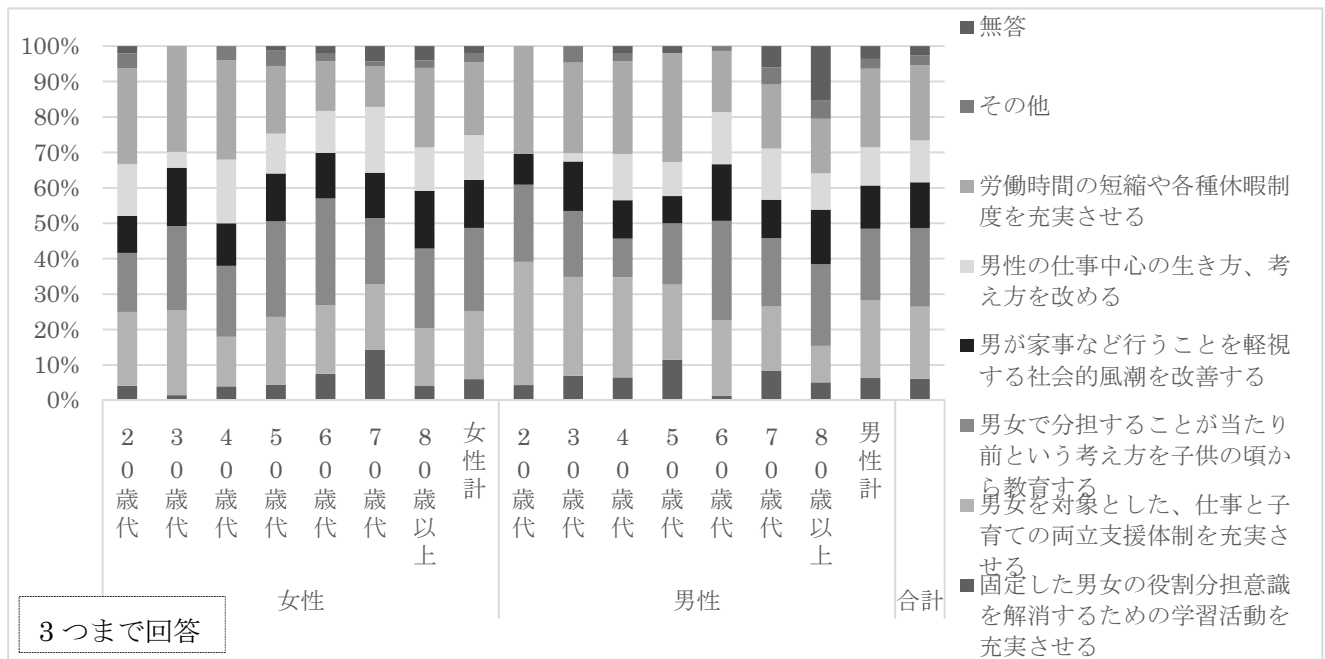


- ① 回答者の 55.4%が「性によって役割を固定化するのはよくない」と回答している。
- ② 女性の 80 歳以上、男性の 70 歳以上で「男性は仕事、女性は家庭を守る」といった性の特性によって役割は決まっている」と回答した人が多くなっている。
- ③ 前回調査との合計比較

	H28 年	H23 年度
性によって役割は決まっている	11.1%	10.8%
性によって役割を固定化するのはよくない	55.4%	54.0%
どちらともいえない・その他	29.5%	34.0%

※前回、前々回とも大きな変化は見られない。

問 12 あなたは、男性が家事や育児、介護などへの関わりを増やすためには、何が必要だと思いますか。

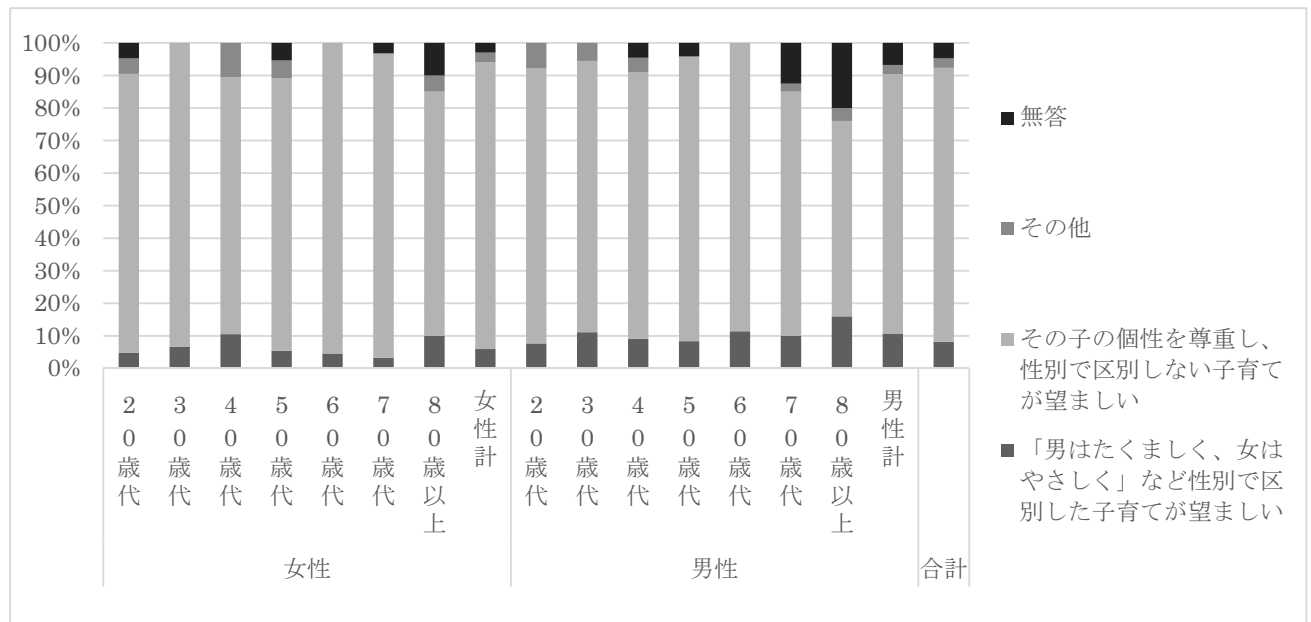


3つまで回答

- ① 回答者の 22.1%が「子供の頃から教育」 21.3%が「労働時間の短縮や休暇制度の充実」 20.3%が「仕事と子育ての両立支援体制を充実」と回答している。
- ② 前回調査との合計比較

	H28 年	H23 年度
子どものころからの教育	22.1%	11.1%
労働時間の短縮や休暇制度の充実	21.3%	18.3%
仕事と子育ての両立支援を充実	20.3%	21.4%
男が家事などを行うことを軽視する社会的風潮の改善	12.9%	14.2%
仕事中心の生き方、考え方を改める	11.9%	12.8%

問 13 あなたは、子育てについてどう考えますか。

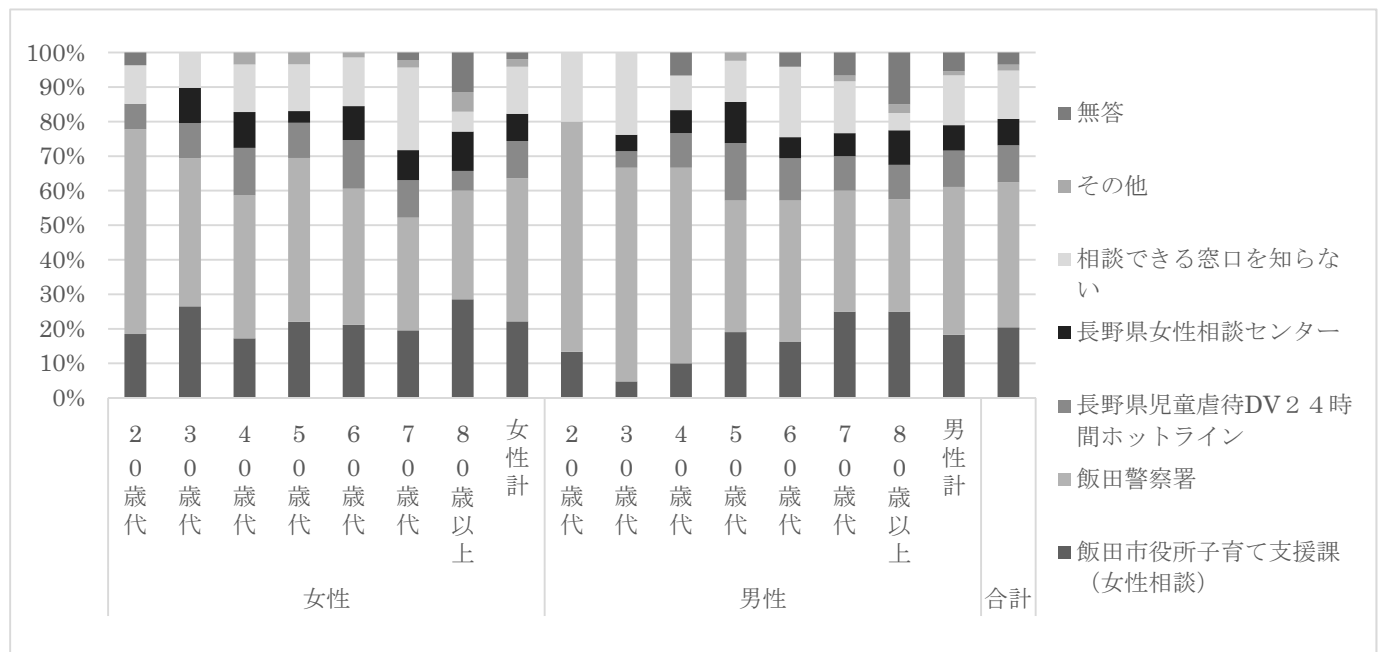


① 回答者の84.2%が「その子の個性を尊重し、性別で区別しない子育てが望ましい」と回答している。

③ 前回調査との合計比較

	H28年	H23年度
性別を区分した子育て	8.2%	13.3%
個別を尊重した子育て	84.2%	81.8%
その他	2.9%	4.9%

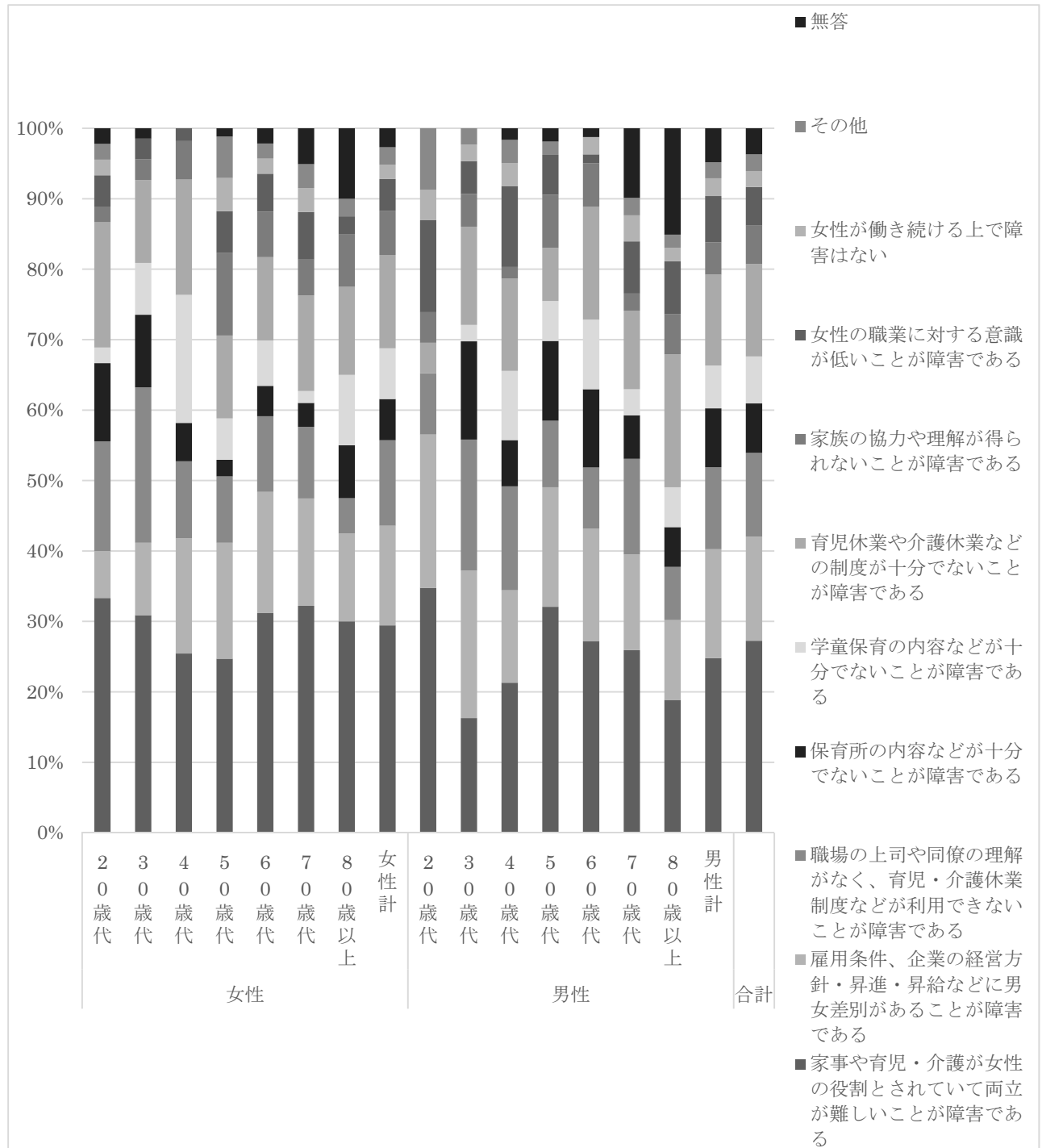
問 14 あなたは配偶者や恋人からの暴力について、相談できる窓口としてどのようなところを知っていますか。(当てはまるものすべてに○を)



① 回答者の42.1%が「飯田警察署」、20.4%が「飯田市役所子育て支援課」14.0%が「相談できる窓口をしらない」10.6%が「長野県児童虐待DV 24時間ホットライン」と回答している。

4 仕事(労働)・職場に関わる事について

問 15 あなたは、女性が働き続ける上で、障害となるものがあると思いますか。あるとすればどんなことですか。

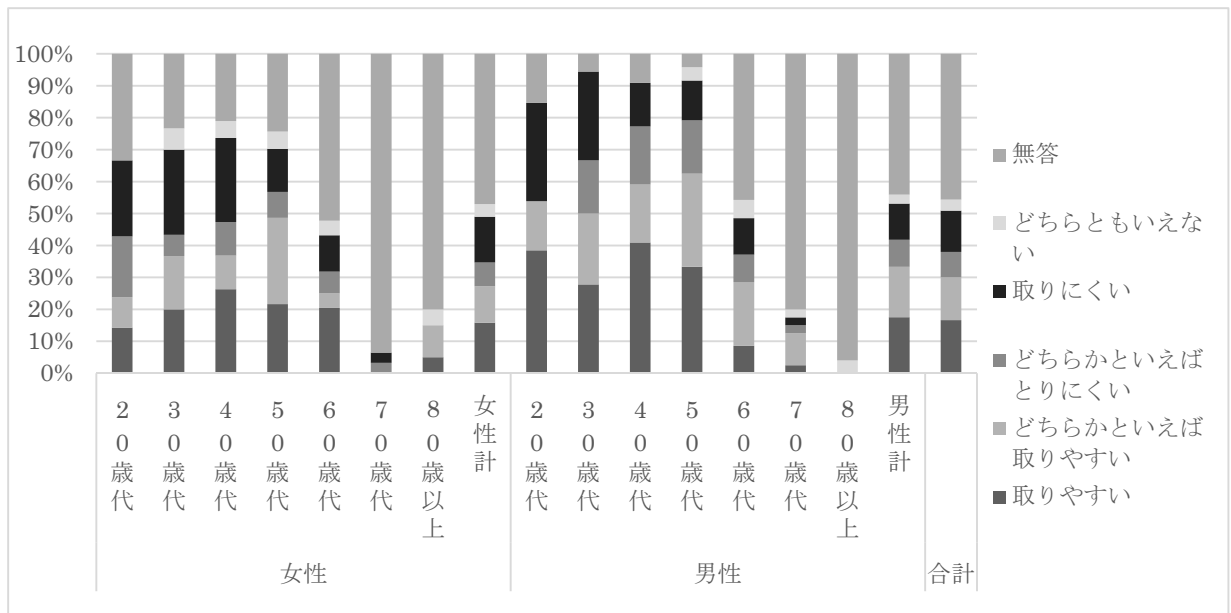


① 回答者の 27.3%が「家事や育児・介護が女性の役割とされていて両立が難しいことが障害である」  
 14.8% が「雇用条件、企業の経営方針・昇進・昇給などに男女差別があることが障害である」  
 13.1%が「育児休業や介護休業などの制度が十分でないことが障害である」11.9%が「職場の上司や同僚の理解がなく、育児・介護休業制度などが利用できないことが障害である」と回答している。

④ 前回調査との合計比較	H28年	H23年度
家事や育児・介護が女性の役割とされていて両立が難しい	27.3%	29.8%
雇用条件、昇進・昇給などに男女差別がある	14.8%	12.4%
育児休業や介護休業などの制度が不十分	13.1%	18.0%
職場理解がなく休業制度利用ができない	11.9%	7.7%

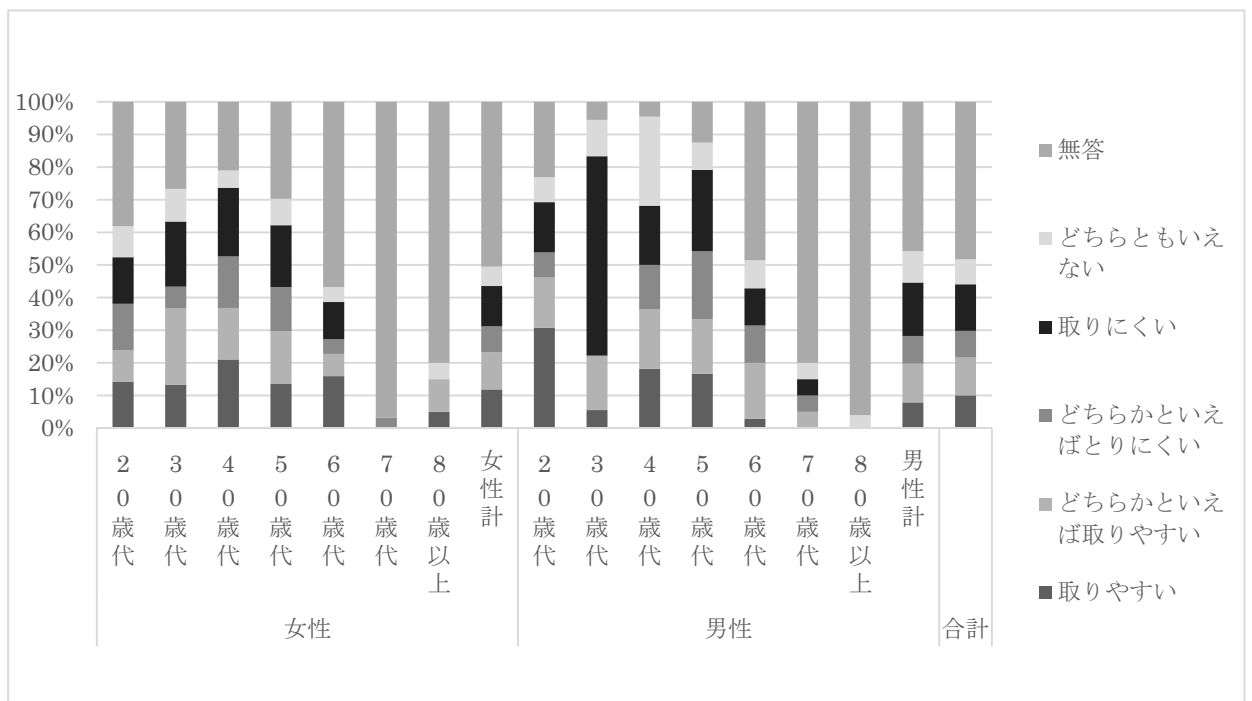
問 16 【現在職業を持っている方にお伺いします。】あなたの職場では、有給休暇や育児・介護休業を取りやすい環境にありますか。それぞれの項目について、あなたのお気持ちに最も近いものを選んでください。

(1) 有給休暇



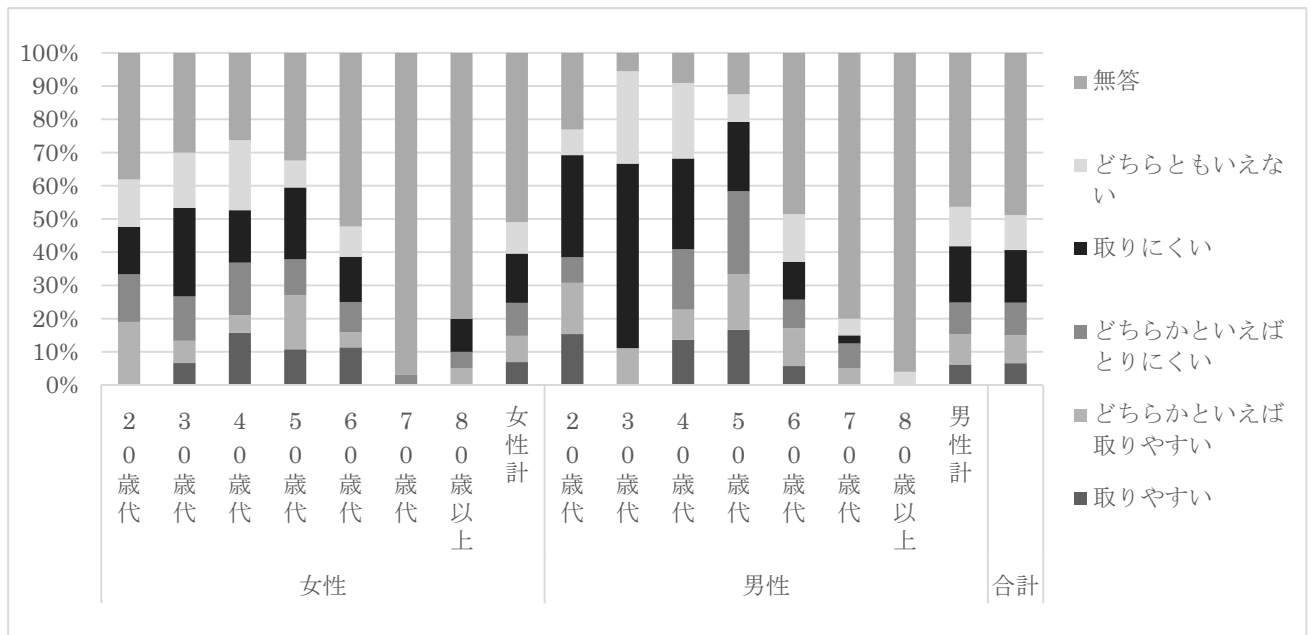
- ① 回答者のうち 30.1%が「取りやすい」「どちらかといえば取りやすい」、20.8%が「取りにくい」「どちらかといえば取りにくい」と回答している。
- ② 女性の 20～40 歳代、男性の 20～30 歳代が「取りにくい」が多い。

(2) 育児休業



- ① 回答者のうち 22.4%が「取りにくい」「どちらかといえば取りにくい」、21.6%が「取りやすい」「どちらかといえば取りやすい」と回答している。
- ② 男性の 30 歳代が「取りにくい」が多い。

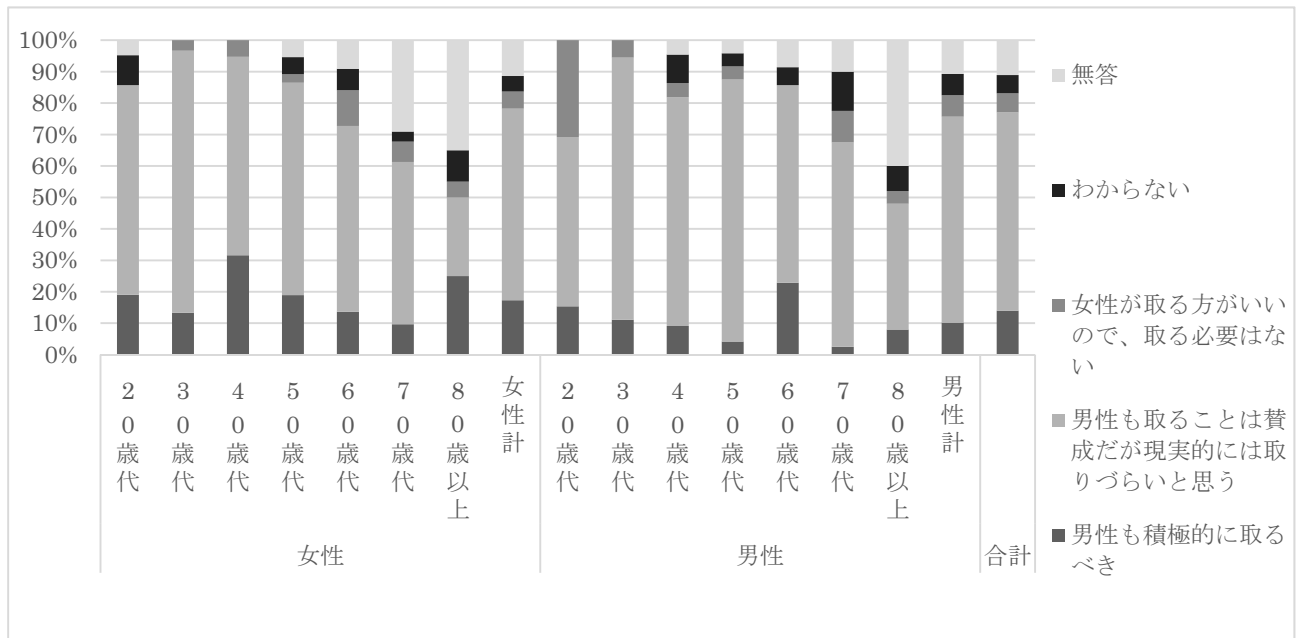
(3) 介護休業



- ① 回答者のうち25.6%が「取りにくい」「どちらかといえば取りにくい」、15%が「取りやすい」「どちらかといえば取りやすい」と回答している。
- ② 男性の30歳代が「取りにくい」が多い。

問 17 あなたは、男性が育児休業・介護休業をすることについてどう思いますか。それぞれの項目について、あなたのお考えに最も近いものを選んでください。

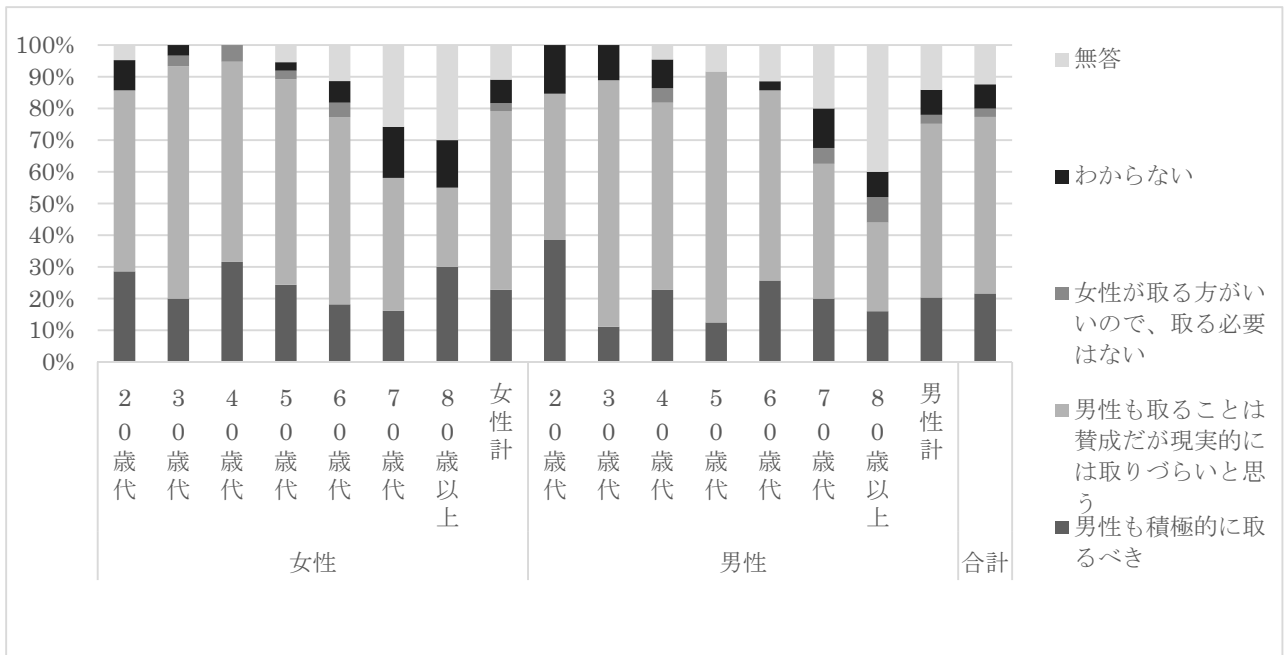
(1) 男性の育児休業



- ① 回答者のうち63.1%が「男性も取ることは賛成だが現実的には取りづらいと思う」14.0%が「男性も積極的に取るべき」と回答している。
- ② 女性の40歳代と80歳以上が「男性も積極的に取るべき」が多い。

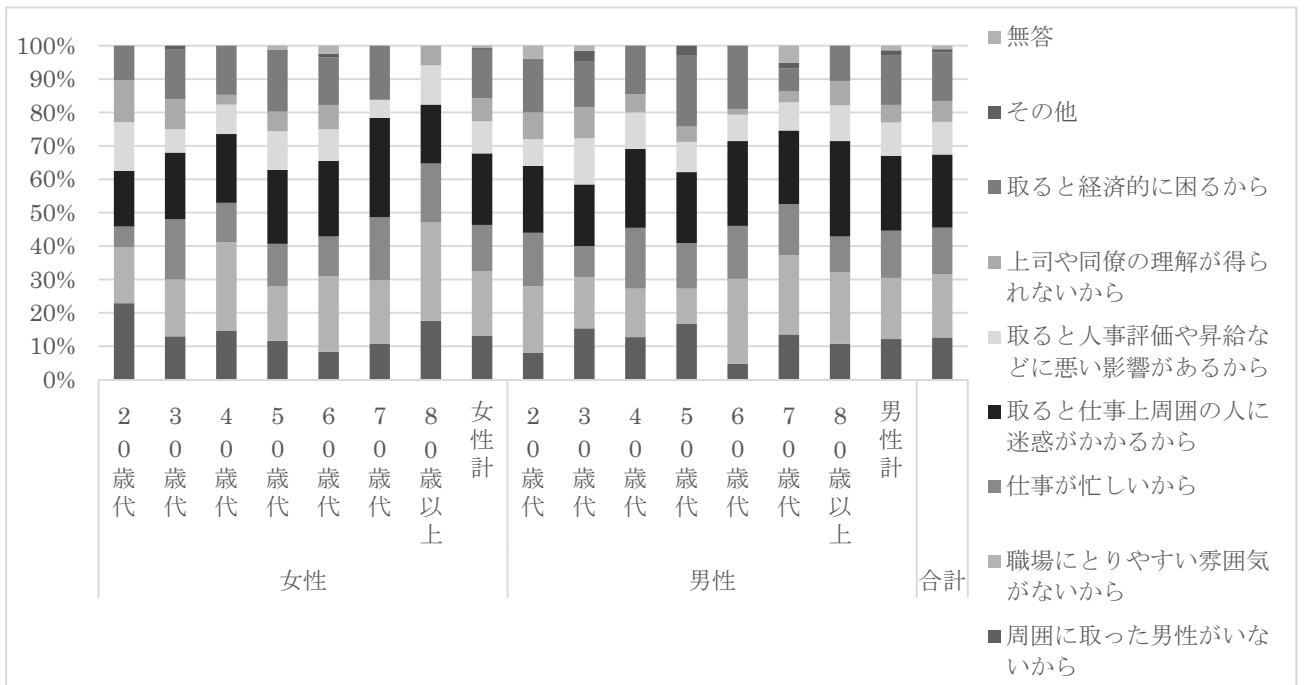


(2) 男性の介護休業



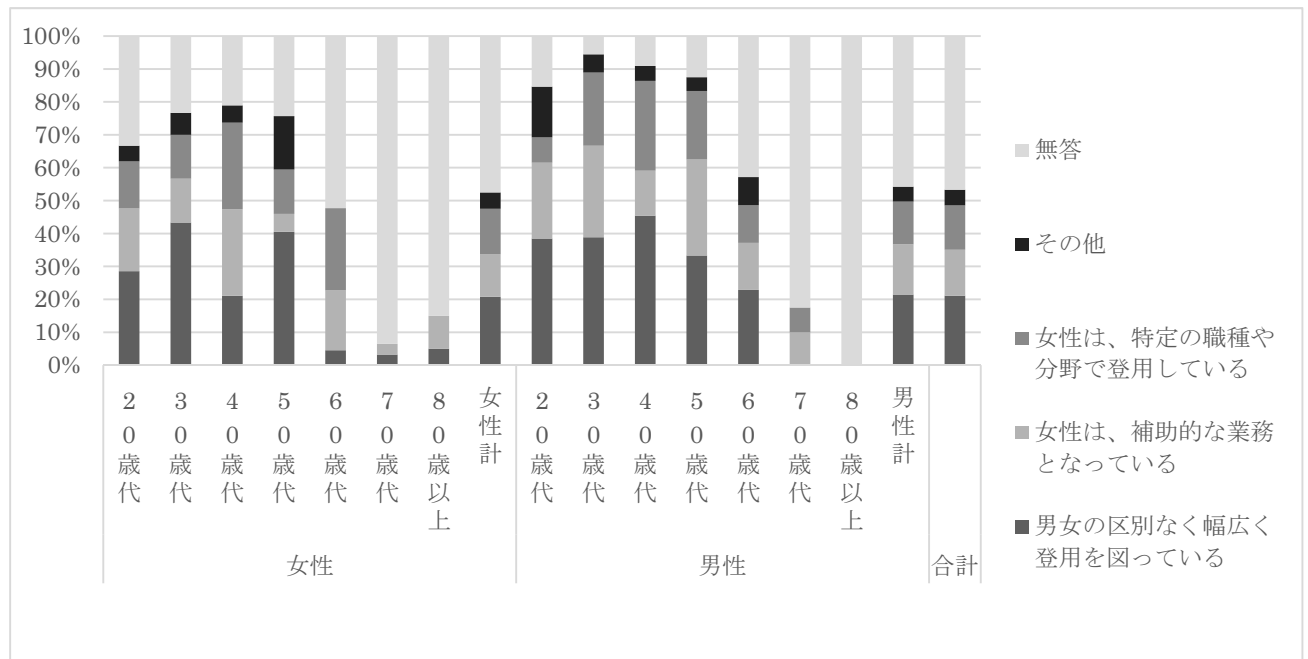
- ① 回答者のうち 55.7%が「男性も取ることは賛成だが現実的には取りづらいと思う」21.6%が「男性も積極的に取るべき」と回答している。
- ② 女性の 20 歳代、40 歳代、80 歳以上、男性の 20 歳代、40 歳代、60 歳代、70 歳代が「男性も積極的に取るべき」が多い。

問 17-1 【問 17 で「2 男性も取ることは賛成だが、現実的には取りづらいと思う」と回答した方にお伺いします。】その理由は何だと思えますか。(当てはまるものすべてに○を)



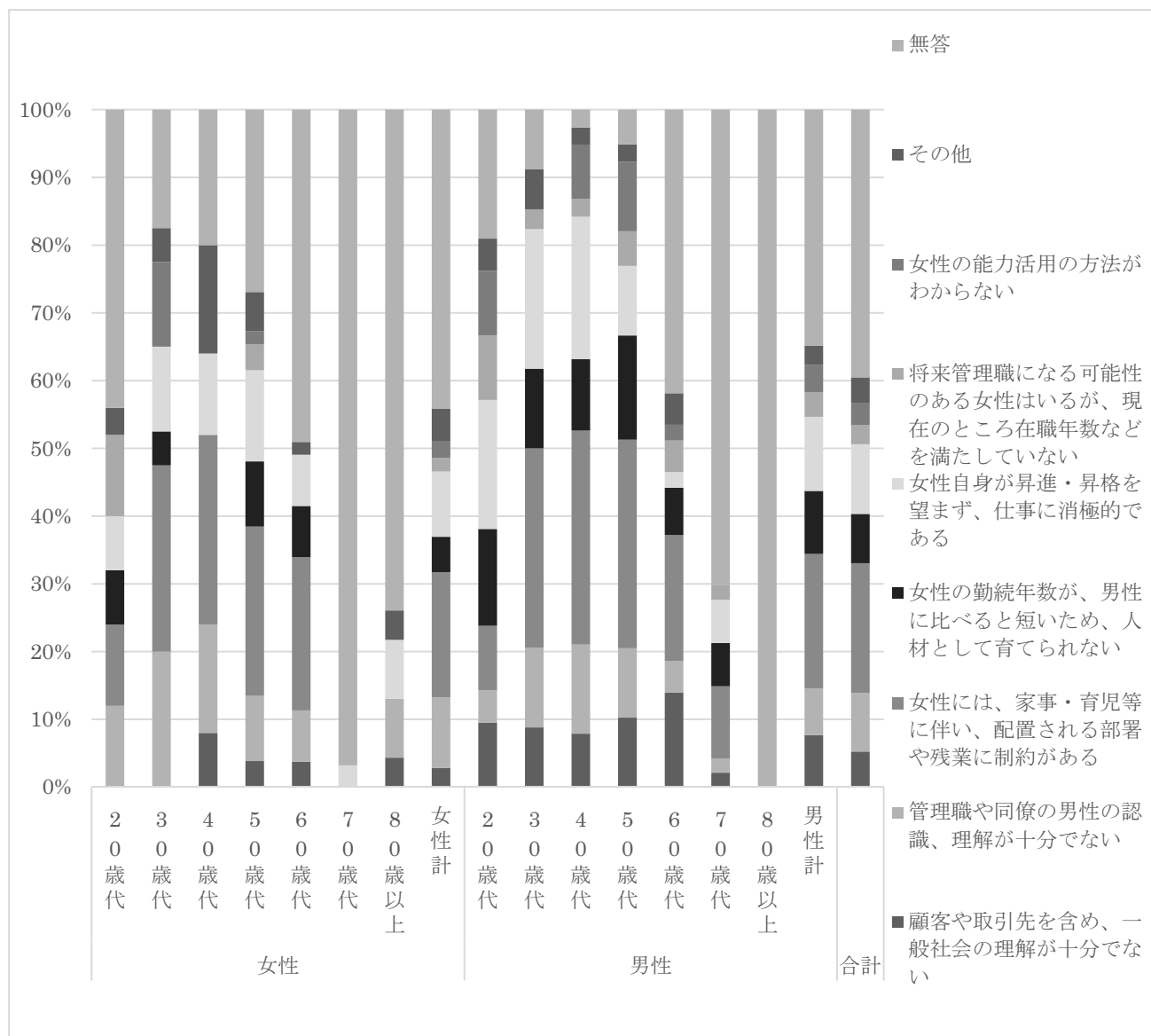
- ① 回答者のうち 21.9%が「取ると仕事上周围の人に迷惑がかかるから」18.9%が「職場にとりやすい雰囲気がないから」14.7%が「取ると経済的に困るから」14.0%が「仕事が忙しいから」12.6%が「周囲に取った男性が少ないから」9.8%が「取ると人事評価や昇給などに悪い影響があるから」と回答している。

問 18 【現在職業を持っている方にお伺いします。】あなたの職場では女性従業員の昇進、管理職への登用についてどのように実施されていると考えますか。



- ① 回答者のうち21.1%が「男女の区別なく幅広く登用を図っている」14.0%が「女性は、補助的な業務となっている」13.5%が「女性は、特定の職種や分野で登用している」と回答している。
- ② 女性の20歳代、40歳代で「男女の区別なく幅広く登用を図っている」が少ない。男性、女性の60歳代以上で無答が多い。

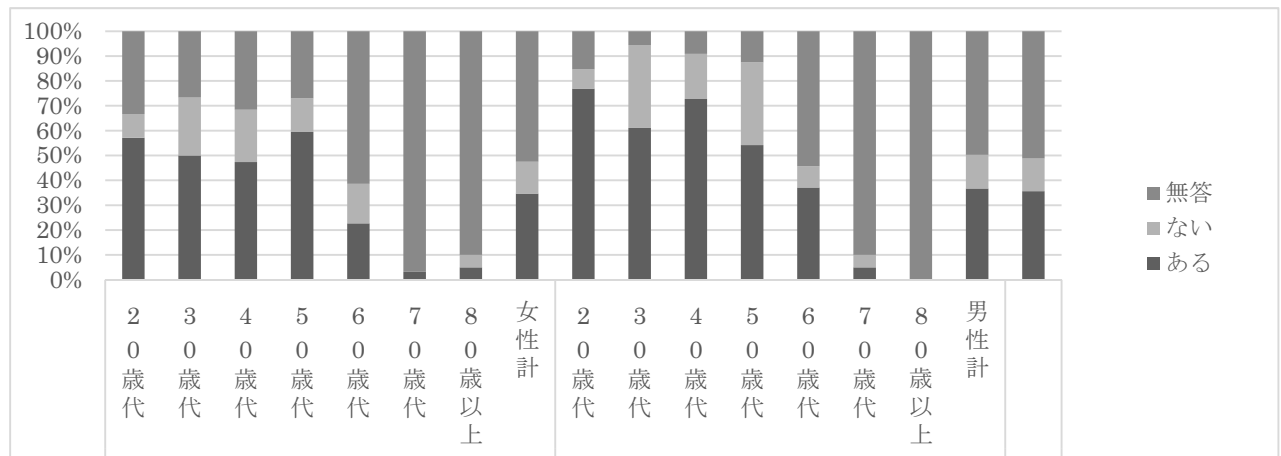
問 19 【現在職業を持っている方にお伺いします。】あなたの職場では女性従業員の活用にあたって、どのような課題があると考えますか。(当てはまるものすべてに○を)



- ① 回答者のうち 19.2%が「女性には、家事・育児等に伴い、配置される部署や残業に制約がある」10.3%が「女性自身が昇進・昇格を望まず、仕事に消極的である」8.7%が「管理職や同僚の男性の認識、理解が十分でない」7.3%が「女性の勤続年数が、男性に比べると短いため、人材として育てられない」と回答している。
- ② 女性、男性の30～60歳代で「女性には、家事・育児等に伴い、配置される部署や残業に制約がある」が多い。

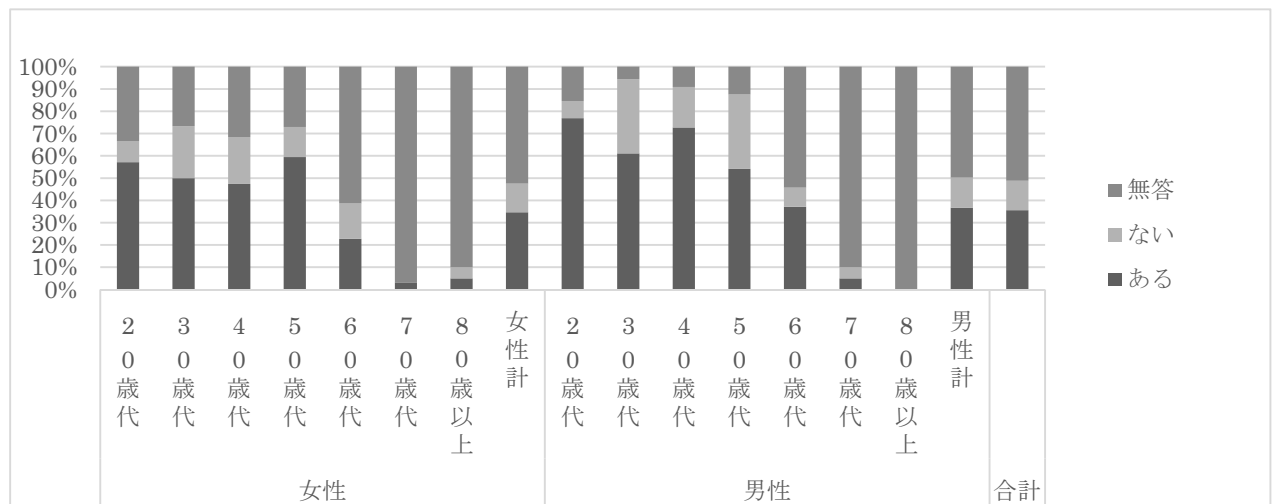
問 20 【現在職業を持っている方にお伺いします。】事業所(職場)は、従業員の子育て、介護などの家庭生活と仕事の両立に理解がありますか。

(1) あなたの会社は



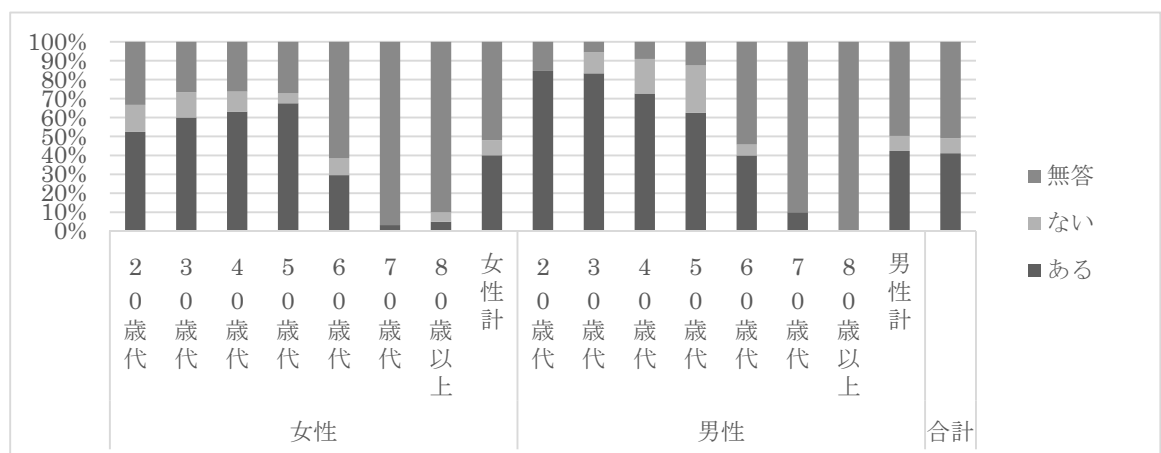
- ① 回答者のうち 36.9%が「ある」と回答している。
- ② 女性、男性の 20～50 歳代で「ある」が多い。

(2) あなたの上司は



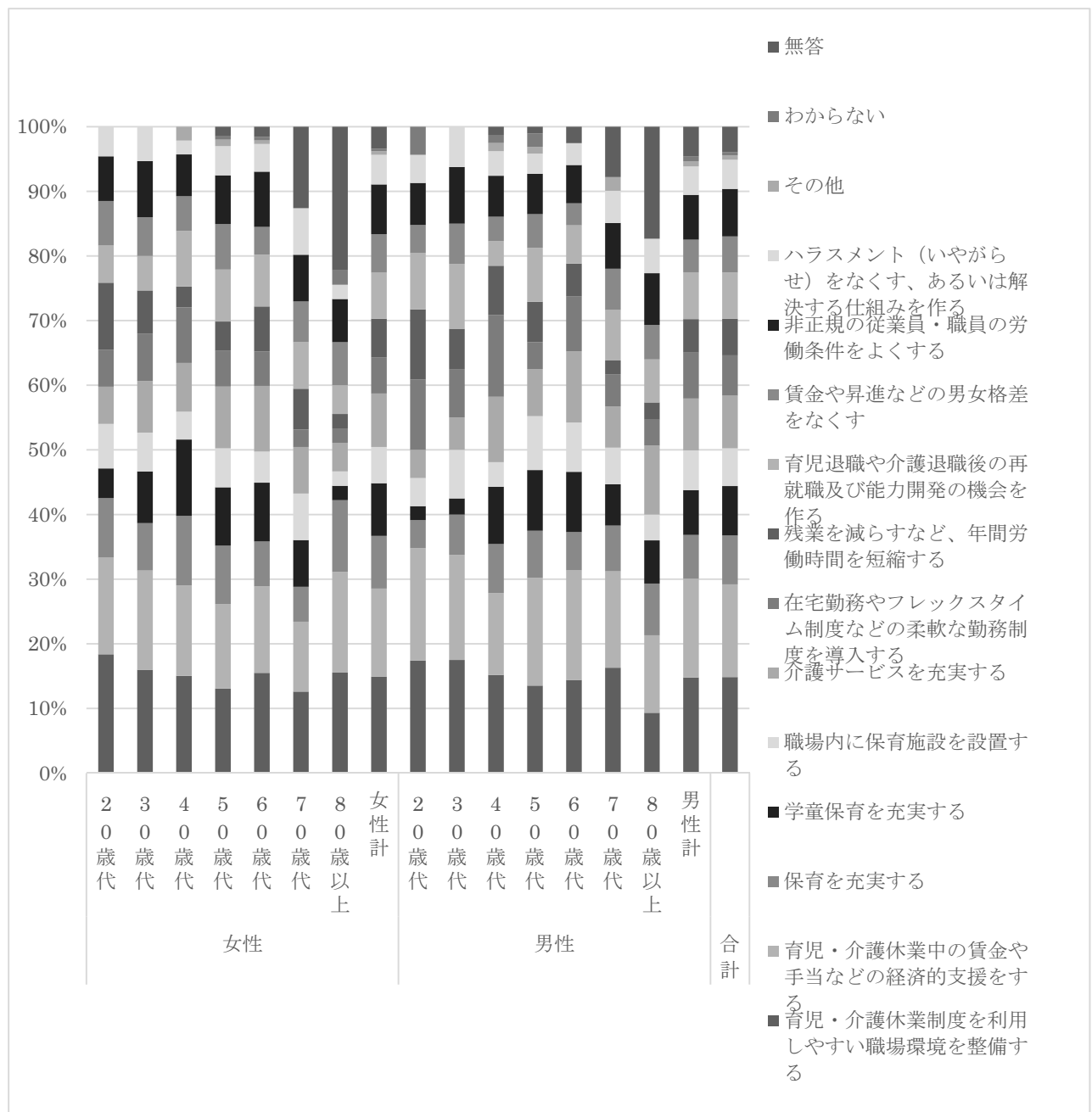
- ① 回答者のうち 35.6%が「ある」と回答している。
- ② 女性、男性の 20～50 歳代で「ある」が多い。

(3) あなたの同僚は



- ① 回答者のうち 41.2%が「ある」と回答している。
- ② 女性、男性の 20～50 歳代で「ある」が多い。

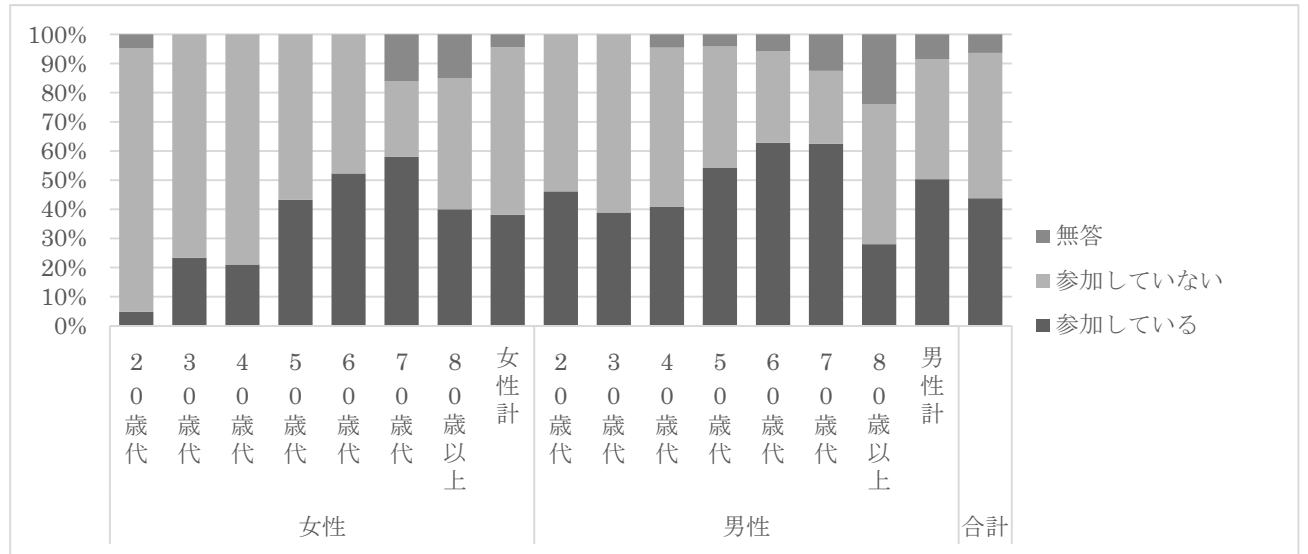
問 21 あなたは、男性と女性がともに仕事と家庭生活を両立させ、安心して働く環境を作るためには、どのようなことが必要だと思いますか（当てはまるものすべてに○を）



① 回答者のうち 14.9%が「育児・介護休業制度を利用しやすい職場環境を整備する」14.3%が「育児・介護休業中の賃金や手当などの経済的支援をする」8.2%が「介護サービスを充実する」7.6%が「保育を充実する」「学童保育を充実する」7.4%が「非正規の従業員・職員の労働条件をよくする」7.2%が「育児退職や介護退職後の再就職及び能力開発の機会を作る」と回答している。

5 地域活動に関わることについて

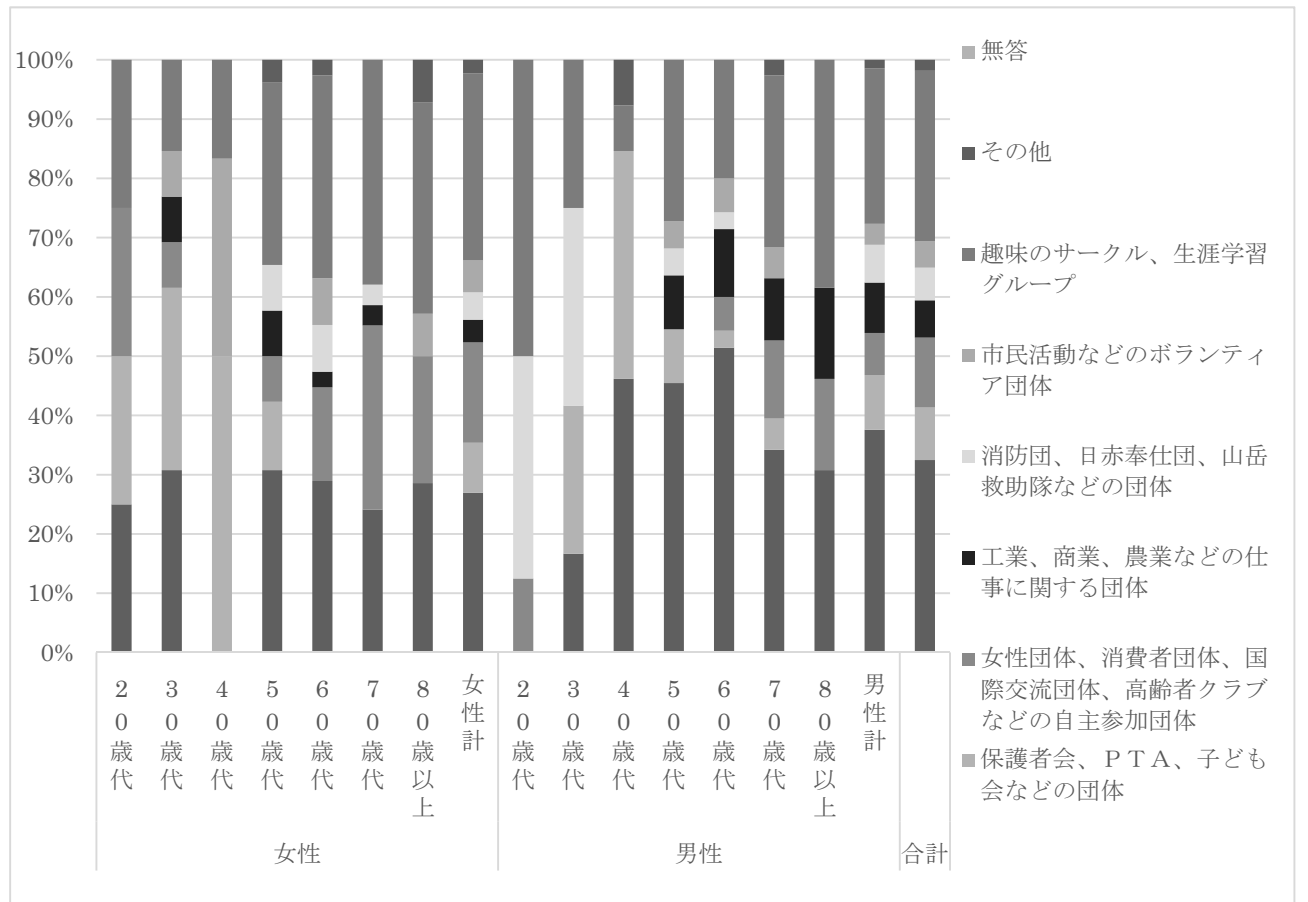
問 22 あなたは、地域の団体やサークル、クラブ活動に参加していますか。



① 回答者のうち、49.9%が「参加していない」43.8%が「参加している」と回答している。

② 女性の20～40歳代が「参加していない。」が多い。

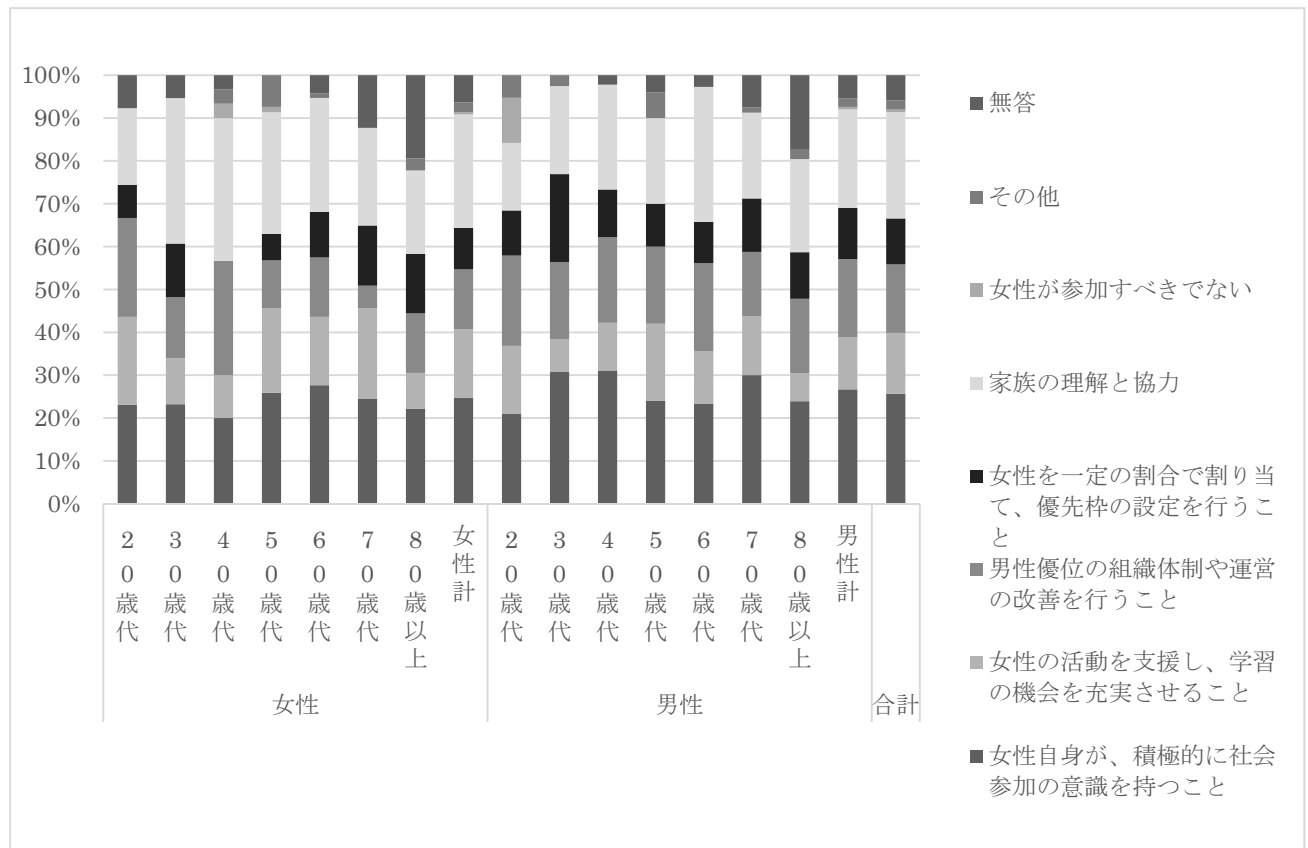
問 22-1 【問 22 で参加している方にお尋ねします。】次のどれに属しますか。(当てはまるものすべて)



① 回答者のうち、32.5%が「まちづくり委員会（自治会、公民館、交通安全、環境衛生、健康福祉）などの公共的地域活動」11.8%が「女性団体、消費者団体、国際交流団体、高齢者クラブなどの自主参加団体」8.9%が「保護者会、PTA、子ども会などの団体」と回答している。

② 女性の40歳代が「保護者会、PTA、子ども会などの団体」が多く「まちづくり委員会（自治会、公民館、交通安全、環境衛生、健康福祉）などの公共的地域活動」少ない。

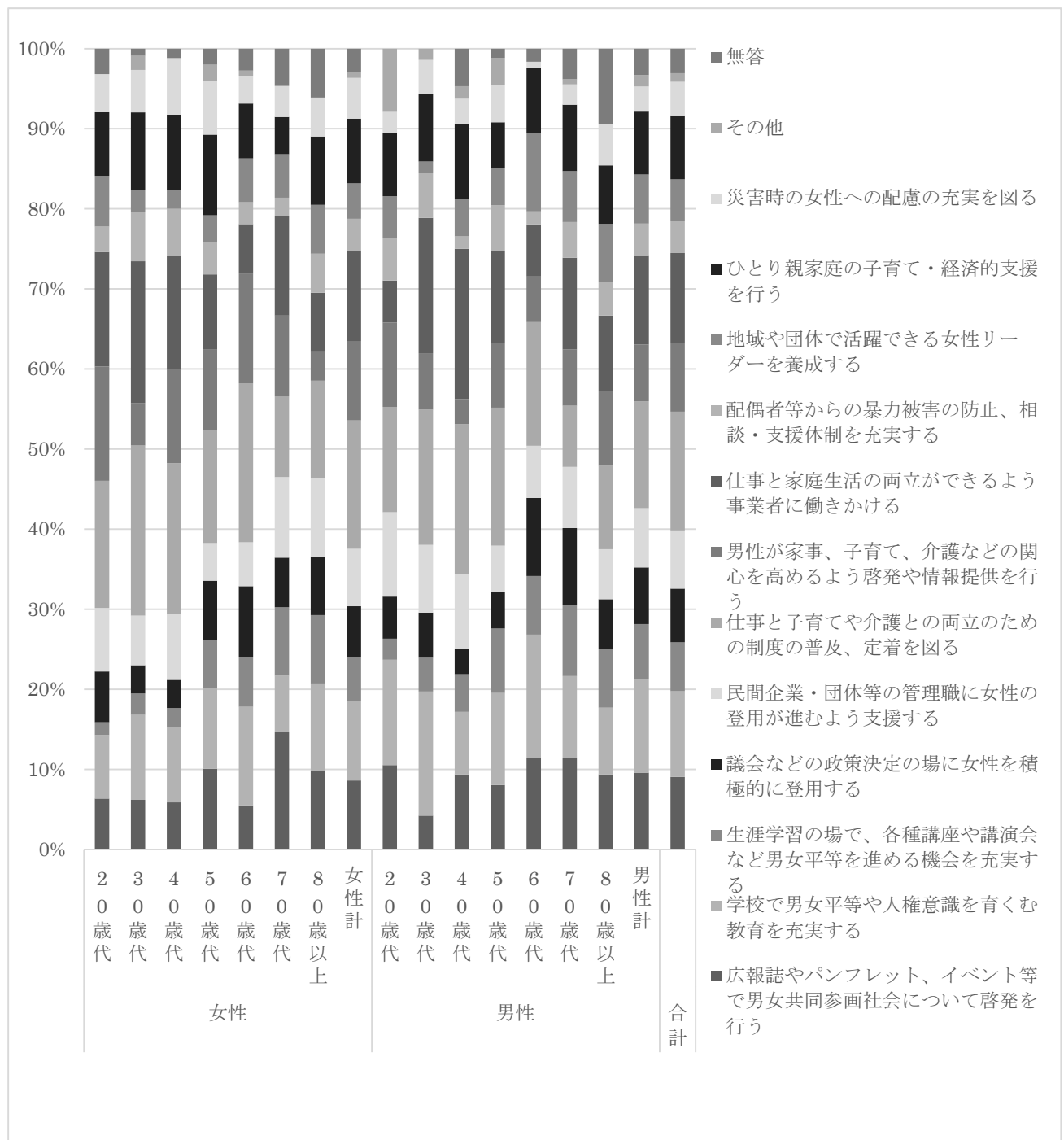
問 23 あなたは、女性が地域活動等の方針決定の場へ積極的に参画していくために何が必要だと思いますか。(当てはまるものがあれば○を3つまで)



① 回答者のうち 25.6%が「女性自身が、積極的に社会参加の意識を持つこと」24.8%が「家族の理解と協力」16.0%が「男性優位の組織体制や運営の改善を行うこと」14.2%が「女性の活動を支援し、学習の機会を充実させること」と回答している。

6 男女共同参画社会を実現するために必要なことについて

問 24 あなたは、男女共同参画社会を実現していくために、市はどのようなことに取り組むことが必要だと思いますか。(当てはまるものすべてに○を)



① 回答者のうち、14.8%が「仕事と子育てや介護との両立のための制度の普及、定着を図る」11.2%が「仕事と家庭生活の両立ができるよう事業者働きかける」10.7%が「学校で男女平等や人権意識を育くむ教育を充実する」9.1%が「広報誌やパンフレット、イベント等で男女共同参画社会について啓発を行う」8.6%が「男性が家事、子育て、介護などの関心を高めるよう啓発や情報提供を行う」8.0%が「ひとり親家庭の子育て・経済的支援を行う」と回答している。



問 25 男女共同参画社会実現に向けてご意見などありましたらご記入してください。

<p>【ワーク・ライフ・バランスに関するもの】</p>
<p>私自身子どもを産むまで管理職という立場で、条件がそろえば、同じ管理職の立場で復帰も可能。しかし、子どもを育てながらフルタイムで働くことは、ハード、ソフト面で難しいし、優先順位として家庭を選んでしまう。夫の育児休業をとれたとして、その短い期間で私の仕事の立場が復帰できたとしても、また何年かは育児中心にならなければいけないから、いろいろ難しいなと思っています。</p>
<p>育児中です。出産前は”非常勤職員”という非正規雇用だったため、やむを得ず”自主退職”という選択をしました。もし、育休産休があつたらきっといまでに働きながら子育てをしていたと思います。労働条件の改善を願っています。</p>
<p>正規雇用で働いている主婦ですが、仕事と家庭の両立にとっても苦勞しています。仕事はやりがいがありますが、家事も子育ても地域のことも、夫はあてにならない。(そういう家庭に育つたから)子どもたちへの教育と社会の制度が良くなるとういなと思います。</p>
<p>小学校の頃からの学習で、男女平等、人権などひたすらやった。このアンケートの内容については、今の社会全体で考えなければどうにもならないと思う。どこも、会社などで人員削減をし、ギリギリの中で働く人も多い中、その人たちに休みを取れるようにということも酷な話だと思う。改善策としては、まず職場内の環境を改善し、その後でないこの関係は難しいと思う。個人的な考えとしては、このことは、大人目線のもので、子育てに関して、子どもの精神面などにも、母親の存在は非常に大きいと思う。(特に0~3歳頃は)出産後すぐに会社復帰でなく、3歳くらいまではそばにいてあげてほしい。もちろん男の協力の上で。家庭によっていろいろあると思いますが、そんなことが受け入れられる大きな懐の社会であってほしい。</p>
<p>子育てをしながら働く女性が、子どものことで休みを取りやすい社会にしてほしい。</p>
<p>家庭を持つ女性というだけで正社員にしてもらえない現実。企業に対して、男女平等、女性の社会進出に向けて、きちんとした制度を作してほしい。</p>
<p>人数が多い大企業や会社はよいが、人の少ない職場等は長期休業中、休業中の補填が難しい、現実的に。なので、企業に対しても、案が必要。</p>
<p>私の経験から一言ご意見申し上げます。私は8年前、28年勤務した会社を退職しました。退職理由は幾つかありますが、一つに「転勤」の問題がありました。管理職になれば女性でも転勤になります。私の家族は主人と養母、子ども2人、単身赴任ともなれば、家庭を守ってくれる人はいません。養母の体が弱く、主婦の私の代役はできません。悩んだ末、退職を決意しました。「男女平等」や「男女共同参画社会の実現」といった趣旨に、基本的に賛同しますが、ただ管理職の人数を増やせばよいという考え方に疑問を覚えます。企業は、女性管理職の人数を増やせば、社会の情勢の波に乗れるという考え方をしている風潮がありますが、実際女性の家事負担、主婦の役割の軽減といった環境が整わないうちに、目先の数字だけを追っている気がします。管理職ともなれば、会社の重責を担う立場から、仕事にウエイトを置き、家庭での役割がおろそかになることも考えられます。「男女共同参画社会」の実現のためには、人それぞれ家庭環境を熟慮したうえで、企業側のフォローと女性のはっきりした意思表示が必要だと思います。日頃から思っていることです。「性の区別より個性の尊重」を提案します。男女平等の精神はもち続け、個人の才能を尊重し活かしていく社会を目指すべきだと思います。</p>

<p>子育て中は働きたくても働けない。子どもが病気の時や、長期休み（夏休み）などの対応がない。特に小学生から。様々な取り組み・・・とありますが、具体的にどのような取り組みをしていてどう改善されたのか知りたい。</p>
<p>男女共同参画社会に向けていろいろな取り組みをしていることは分かりますが、保育所・学童保育などを増やして女性を社会に進出させようとしています。このことは何も言うことのできない弱者を犠牲にしているように思います。子どもたちが何を望んでいるか、小さいうちは親と一緒にいたいと思うのが普通だと思います。赤ちゃんのうちから保育所に行き学童保育に行き子どもたちと親が接する時間が短くては子供の成長のために良くないと思います。朝7時から夜6時まで預けると親子の時間はほとんど取れないと思います。1年2年育休が取れるのではなく正規の社員でもせめて子どもが小学生を持つ親は4月ごろに変えられるような体制は取れないでしょうか。行政指導で何とか実現させてください。</p>
<p>子どもや老人は突発的に色々なことが起こる。当然人の命にかかわることなので最優先すべきだが人事のことを考えると（仕事）その場の状況をうまく回せるか問題。そのようなとき職場の理解と公的支援が必要。</p> <p>公的支援が即対応として・親や介護者によって病院へ連れて行ってもらえるか、とか、・企業へ（人事）の助けが入る等々</p>
<p><b>【労働環境・人材登用にに関するもの】</b></p>
<p>女性が働きやすい環境や職場復帰できる環境をもう少し整えてほしい。まだ全然都会に比べたらダメだと思う。家でも職場も基本男っていうのが根強く残っている。</p>
<p>育児休業制度を利用しやすく！</p>
<p>以前勤務していた企業は、組合もあり、この案が実現に近いところでしたが、時代に逆行するような考えで経営している企業に勤めている今は、その以前の労働条件、環境を整えることが先だと思い、飯田にはそういう企業が多いと思います。</p>
<p>ハラスメントの教育、指導を経営トップへすることを充実してほしい。中間管理職のハラスメントばかりが注目されているが、そもそも経営幹部の考え方や、理解がないため、ハラスメントがいつまでも続く。だから、子育てや介護休業も取れない。さらに、女性への仕事の理解もない。地域社会への啓発を行うと同時に、企業幹部の教育指導をしないと、偏りの施策になり、改善は難しいと感じる。</p>
<p>能力のある女性が多くいるのに、活躍ができずにいるのは残念です。半分は女性なんだから。</p>
<p>この実現に際し、男女において待遇に大きな差があってはならないと思う。例えば人材採用の場において。男性の場合はその人のキャリアや素質、仕事への熱意などが選考材料となるが、女性においては、その性別自体が売りになっているようなきらいがある。望む者には適切な機会を与えると、男女共同参画社会の理念は素晴らしいと思うが、その本来の意図をはき違えてはならないと思う</p>
<p>市職員の要職を女性に。男女だけで分類できない人もいることを考慮。LGBT(性的少数者)とか。</p>
<p>教育や学習会など頭のかたい事ではなく、まず飯田市の組織の中から意識を変え、有能な女性を登用していくこと、そして事業所へ指導していくことが大切だと思います。子育て支援や介護支援に</p>

についても同様です。それを行うには、きちんと世の中の厳しさを知っている民間企業経験者等の中  
途採用を増やすことも有効かと思えます。頭だけでなく経験の裏付けの上でのアイデアは大切。

### 【社会・地域】

日本は欧米と違いどうしても男優位の精神が根本に流れている。日常生活はほとんど女性が何もかも  
もやっているのに、男性も家庭が何よりも大切であることを頭にしっかりおいてほしい。

人生は誰もが男女同じ教育を受けているのですから、男女の差はなくあるべきでないと思う。自分  
自身特技をつけることに男女の差が付きやすいものです。元は男女の差はないと思います。一般家  
庭での男女の差をつけない方が良いと思う。職業の選択が大切です。一般家庭での炊事は女性と思  
います。料理では、女性より男性の料理人世界的に多いと思います。一般家庭では、見た目より味  
だけの生活が多いへんかと思えます。

戦前の家長制度のような感覚を引きずっている父(養父)世代と、長男意識を押しつける地域のあり  
ようが、私にとっては苦痛です。地域の役員も男女別に割り振ったり(日赤奉仕団は女性が多い、組  
合長は男性、各部を男女一人づつ e t c ) する必要はないと思うが、慣例を破る人はいない。組織  
の上の方からの改善を指示してほしい。

地域の活動において、無理やり女性の役員を選出するようなことが良いのか疑問である。男女平等  
は当たり前。奥さんが稼いでくれれば、夫の私がパートに出て家事をしても良い。

夫婦ともに働くことが多くなってきていると思うが、生涯賃金を考えると、片方が働き続けた方  
が、結果的に多くなる。したがって、現在のように男性は働き、女性は家という風潮は変えづら  
く、育児休暇を含めた総合的な対策が必要だと思うし、そのような対策があれば、男の私も育児休  
暇を取るつもりでいる。

男女共同参画社会実現ということはよいことだと思う。しかしそれをうまく利用されて、地区の役  
員をさせられたり、市の行事に参加させられたりするのではないかと心配している。私も何年か市  
の行事のお手伝いをしてきたが、行事が多すぎて家庭を犠牲にしてきた。男性と女性の立場は違  
うので簡単に賛成することには抵抗がある。これからの若い世代の人たちのことを思うとどうしたら  
よいのか考えさせられる。

このアンケートそのものが女性を低く見ている気がします。それでも、一般社会にはそれなりの差  
別があると思います。今の時代女性も積極的に政治に、社会に、家庭に頑張りたいです。もちろん  
周りの皆様のご協力があってこそですが。もう少し現状を伝えていただかないと趣旨がわかりませ  
ん。答えにくいアンケートでした

男女共同参画は10年以上前から言われ、女性の役員、管理職の登用等についても調査等してい  
ても、なかなか現実には難しいですね。私もこの仕事に関わったことがあります。本音と建前は違  
うということを実感したことがあります。

全てのしわ寄せは、子どもたちに行くことを、大人はもっと自覚するべきです。女性が社会に進出  
する前に、男性が働く場を作るべきだと思います。女性が必死に働く社会になって、世の中はうま  
くいっているとは思えません。

互いに協力するという意識を持つことが基だと思う。そのような社会を作り上げること、大人一人  
一人が「男女協力」を日常生活の中で実践する。言葉と共に行動することで、子どもはその姿を見  
て、よりよく育っていくでしょう。子どもの教育より大人の姿、実践を

<p>社会の大人たちが意識改革をすると同時に各家庭での話の中で教えていくこと。学校教育で男女共同参画の大切さの精神を教えていくことと考える。</p>
<p>地域により年配の方が意見が強いため、若い人が意見を言っても理解してもらえない。昔ながらの意見が強い。</p>
<p>昔からの慣例に従って生活してしまうところがどうしてもある。変革をするためには、特に女性の意識改革が必要のように思う。一歩引き下がるのではなく「私にまかせてみてください。」という気概が多く芽生えてきたらうれしい。</p>
<p>男は家族4, 5人の生活できるような給与体系を確立させること。女は子どもが義務教育が終わるまで子育てにあたり社会人として常識ある人間の基本づくりをすること。保育園、学校に教育を丸投げするのは良くない。女性が働くのは生活費が必要だから働くので共同参画など考えている人は少ないと思う。子育てが終わってからの共同参画は問題も少なくなる。</p>
<p>家庭あつての職場であり、職場あつての家庭であり、充実した日々が送れますよう一人一人の努力が大事だと思います。</p>
<p>この仕事は男のそれ、あれは女性でなければダメという決定をせず、まずは男女平等に機会の設定をしてもらいたい。</p>
<p>高齢化社会に向けて介護の視点が大切では</p>
<p>風土改革するための個人の意識改革</p>
<p><b>【一般的なもの】</b></p>
<p>現在60代の私は、夫からの暴力に耐え、世間の目を気にし、子どもが片親ではかわいそうということを経験により、子どもが成人するまで、離婚を我慢してきました。昔の風潮は男性社会が当たり前でした。今のように女性を擁護してくれる社会に生まれたかったです。</p>
<p>講演会、考古学、美博見学、市大学講座等、出来るだけ出掛けていますが、大学教授の話は予備知識がないが、終わりのころになると話のアウトラインが分かって楽しい。女性の方が多くみえるので参画が進んでいるように思います。女性の講師も多く良いと思います。 以下 省略</p>
<p>私は、主人の父母を40年みてきました。その時代は、父母のことは言うことを聞くものだったのでした。はいはいと言って従ってきました。今の時代、今度は私達が若い人達の気を使う時代になりました。私はきずみの時代だと思っています。大変な目にあってきましたが、人生には無駄はありません。大変な目にあっている人の気持ちがわかりますから。</p>
<p>女性が企業の管理職になったり地域のリーダーになったり、男が家事をこなすのが「男女共同参画社会」ではないと思う。昔ながらの女性が家や家庭を守り、男が外で働くスタイルも、立派な男女共同参画社会であることをよく考えてもらいたい。</p>
<p>無理に参画を促してもいけないと思う。男性に向けた事か女性に向けた事(力など身体上の問題)もあるのは当然なので、それを無視して形だけの政策を取ることは良くないと思う。でも、それを踏まえた上で男女平等な社会を目指していければよいと思う。あまり線引きしすぎても逆に暮らしにくい世の中になるのではと思う。</p>
<p>男女には各々の性差があり、適性もあるので、それ等を考慮した施策を希望します。</p>
<p>まだまだこの世の中男の世界。女性も早く出てきて。介護が大変だ。経済的にも大変</p>

女性自ら意識を高めることも大切。勇気をもって。
一日も早く男女平等の日が来ることを願っています。
形だけ整えても、女性の能力と意識がそこにないと害あって益なしと思う。
いうだけなら誰でもできる。実効あるのみ。
キーワードは「思いやり」ではないでしょうか。
<b>【アンケートへの意見など】</b>
テーマが大きすぎていろいろな角度から見ると、何から改善が必要なのかわかりません。長いスパンで行うもの、短期で実現できそうなものを区別して、それぞれのテーマで軸を決めて進めていければ良いと思います。
名目がやや難しい名前に聞き取れるため、もっと単純明快の名目とし、誰でも参加でき、誰でも聞き入れる会、誰でも参加しやすくなるよう、ひと工夫でもしていただけると、理解しやすく、聞き入れやすくなるのではないかなあ？と思いました。(男女共同参画の参画って何？)(社会実現するの？義務なの？など)
今回のアンケートで何を求め口部分の方向性を見つけ出した等、狙いが見えなく、広範囲な設問であり答えにくい。めざす社会像みたいなものを設定しておいて、それを構築するよう進めては。
男女共同参画社会についての知識が少ないので、もっと知識があれば、いろいろ答えれたと思います。知る機会があればいいなと思います。
男女共同参画社会というと聞こえは良いけど、それが何故必要なのか、本当に意味ある事なのか、きちんと理解していません。先ず、この理解を深め、男女共同参画社会の意識を浸透させていかないと実現は難しいと思います。
もっと広く何をやっているのか理解できるようPRしてほしい。(何をどこでやっているのか、今いち伝わってこないから)
理想と現実のギャップの見極めと正しく明確な迷わない女性の位置づけと周知が必要なのではと考えます。
参画事業に関しては、啓発が薄く、若い世代に行き渡っていない。細かくパンフレットに記載して配布してほしい。
本アンケートには質問の意図が不明瞭なもの、解答を誘導するようなもの、偏った選択肢などが多々見られました。集計結果の正確性向上のため、改善するべきかと思います。
衰退した日本経済を復活させることをまずは考えるべきで、優先事項(この概念は)ではない。
時代の変化だと感じますが、いろいろの行事、会議、イベントなどに進んで参加しない人が多いと感じる。休日などあるが自分のところでいっぱいなのか。問24全部が実現できればと思います。
地区の役員が多く高齢化を伴い大変であるのでよい改善方法があるとよいと思う。
年金生活で、私の所には適切な答えができません。
このようなアンケートも80歳以上の高齢者にとっては、あまり意味がないように思いました。

